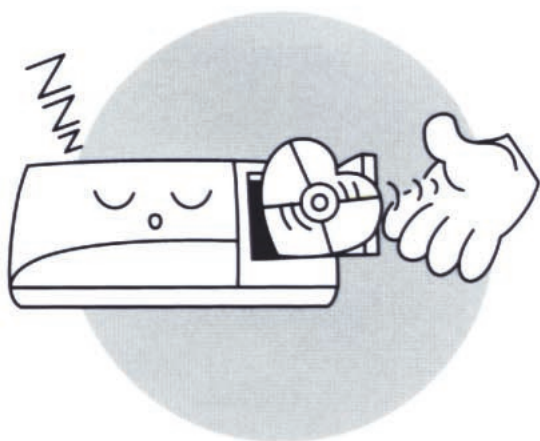


# 再セットアップガイド

- Windows 95と  
添付アプリケーションの再セットアップ
- 他のOSを利用する





#### ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断で他に転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載れなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響については、(3) 項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
  - ・ 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 95および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Active Movie、NetMeeting、OutlookおよびWindowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

OS/2、OS/2 Warp、WIN-OS/2は、米国IBM Corporationの商標です。

NetWareは米国Novell, Inc.の登録商標です。

MGA-1064SGは、マトロックス・グラフィックス社の登録商標です。

一太郎、ATOKは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

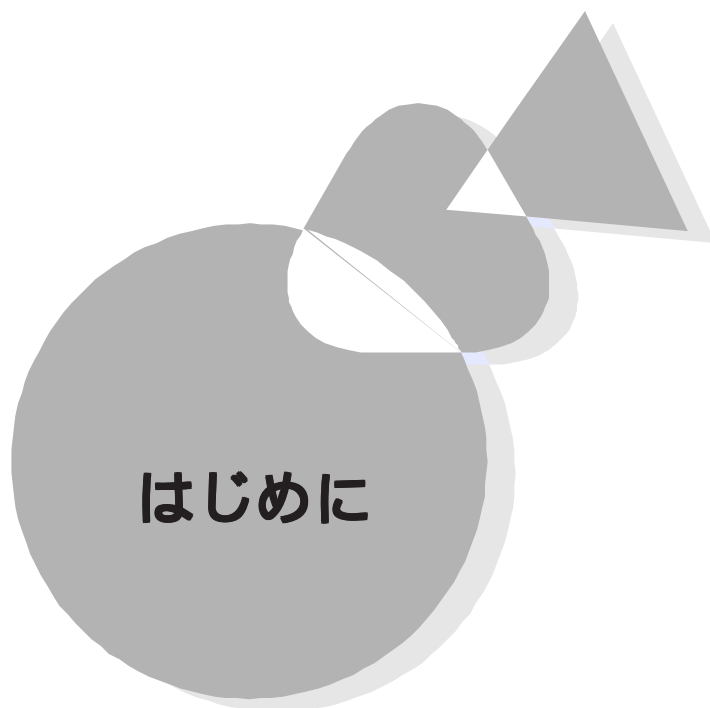
「一太郎Office8」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎Office8」にかかる著作権、その他の権利はすべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 1997

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

AN7A1A



## はじめに

このマニュアルでは、本機添付の「システムインストールディスク」や「バックアップCD-ROM」を使って、Windows95のシステムと添付アプリケーションを復元する手順を説明しています。

また、他のOSを利用するためのアップグレードや注意事項について説明しています。

# このマニュアルの構成

なお、このマニュアルは次の機種を対象にしています。

- ・ PC-9821V233/M7 model C3、D3
- ・ PC-9821V200/S7 model C3、D3
- ・ PC-9821V200/S5 model C3、D3



## Part 1

### Windows 95と 添付アプリケーションの再セットアップ

Windows95のシステムと添付アプリケーションの復元について、本機添付の「システムインストールディスク」や「バックアップCD-ROM」を使って、ご購入時の状態に戻す手順を説明しています。

また、独自に本機のハードディスク内のシステムやアプリケーションの環境を設定したい方もご覧ください。

なお、本書では、本機のハードディスクの内容をご購入時の状態に戻すことを「再セットアップする」または「再インストールする」といいます。



## Part 2

### 他のOSを利用する

MS-DOSやWindowsの知識をもっているユーザの方を対象に、Windows 95以外の別売のOSを本機で利用するための必要な知識や注意事項について説明しています。対象OSは次のとおりです。

- ・ MS-DOS 6.2
- ・ Windows NT
- ・ NetWare
- ・ Windows 3.1
- ・ OS/2
- など



## 付録

固定ディスク起動メニューやFAT32ファイルシステムを利用する際の必要事項について説明しています。

## ソフトウェアの最新情報のお知らせ

製品の最新情報、ソフトウェアのアップデートサービスの情報、ソフトウェアの強化・修正情報、モジュールの入手情報を、FAXサービス、パソコン通信、インターネットでご案内しております。

- ・ NECパソコン情報FAXサービス  
FAX 東京：(03)3769-9821  
大阪：(06)304-9821
- ・ パソコン通信  
PC-VAN NECパソコン情報 (J NECPC)  
NIFTY-Serve NEC Information Center Forum (GO FNECINFO)
- ・ インターネット  
NEC PC Information URL <http://www.nec.co.jp/pc/>

# このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合によっては、本機が故障したり、本機で使用しているソフトウェアや、お客様が作成されたデータが壊れたりする可能性もあります。



参考にしていただきたいことを説明しています。



参照ページを表しています。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。

本機	PC-9821V233/V200本体と、ディスプレイやキーボードなど、本体に接続されている周辺機器を含む、システム全体を指します。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、PC-9821V233/V200を指します。
Windows	Windows 95と別売のWindows 3.1の両方を指します。
Windows NT	別売のWindows NT 4.0と別売のWindows NT 3.51の両方を指します。
MS-DOS	MS-DOS® 6.2を指します。
MS-DOSモード	Windows 95のMS-DOSプロンプトの状態を指します。
[ XXX ]	[ ]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。例：[ OK ]ボタン
<b>ESC</b>	キーボードのキーは、枠で囲んで表記しています。

MS-DOSのコマンド書式で使用されている記号には、次のような意味があります。

< >	この中の項目は、必ず入力します。
[ ]	この中の項目は、必要に応じて入力します。
	この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

記載されているアプリケーションなどの製品の正式名称は、以下のとおりです。


本文中の表記	正式名称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows 3.1	Microsoft® Windows® Operating System Version 3.1
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51
一太郎8	一太郎Office8 for Windows 95/NT
Word・Excel・Outlook Word 97 Excel 97 Outlook 97	Microsoft® Excel 97 & Word 97 & Outlook™ 97 for Windows®

本文中で使われている用語で、わからない用語が出てきた場合は、『困ったときにお読みください』の「パソコン用語集」をご覧ください。



# 目次

はじめに	
このマニュアルの構成 .....	iv
このマニュアルの表記について .....	vi



## Part 1

### Windows 95と 添付アプリケーションの再セットアップ

再セットアップする前に .....	2
再セットアップする手順 .....	6
標準再セットアップ .....	8
1.簡単に再セットアップする .....	8
2.Windows 95の設定をする .....	12
3.Word・Excel・Out lookを再セットアップする .....	17
カスタム再セットアップ .....	27
1.領域を削除する .....	27
2.領域を確保する .....	32
3.ドライブをフォーマットする .....	40
4.システムを再セットアップする .....	42
5.Windows 95の設定をする .....	45
6.Word・Excel・Out lookを再セットアップする .....	50

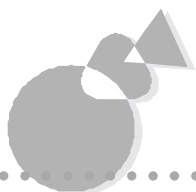


## Part 2

### 他のOSを利用する

MS-DOS 6.2を利用する .....	62
MS-DOS 6.2の利用 .....	62
Windows 3.1を利用する .....	74
Windows 3.1の利用 .....	74
Windows NTを利用する .....	83
Windows NT 3.51の利用 .....	83
Windows NT 4.0の利用 .....	93
OS/2を利用する .....	101
OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、 OS/2 Warp 4-日本語版の利用 .....	101

NetWareを利用する .....	105
NetWare® 3.12(ファイルサーバ)の利用 .....	105
NetWare® 4.1(ファイルサーバ)の利用 .....	112
IntranetWare/NetWare® 4.11(ファイルサーバ)の利用 .....	116
その他のソフトウェアを利用する .....	118
N <sub>88</sub> -日本語BASIC 86 (MS-DOS版) Ver 6.2の利用 .....	118
LANマネージャ リモートアクセスサービスの利用 .....	119
プラグ&プレイサポートソフトウェアの利用 .....	123



## 付録

固定ディスク起動メニューの利用 .....	126
FAT32ファイルシステムの利用 .....	129



Part 1

# Windows 95と 添付アプリケーション の再セットアップ

本機に添付されている「システムインストールディスク」や「バックアップCD-ROM」を使って、本機のシステムやアプリケーションを復元する方法を説明しています。

ここでは、標準再セットアップとカスタム再セットアップに分けて説明しています。

なお、「再セットアップする前に」は必ずお読みください。

再セットアップする前に

標準再セットアップ

カスタム再セットアップ

# 再セットアップする前に

ここでは、再セットアップを行う際に必要な情報や注意事項について説明しています。

再セットアップを始める前に必ずお読みください。

## 再セットアップが必要になるとき

次のような状況のときに、本機を再セットアップしてください。

- ・ ハードディスク内のプログラムが不正になり、システムが起動できなくなった
- ・ ハードディスク内のシステムファイルを誤って消してしまった
- ・ 電源をONにしても、システムが起動しない
- ・ ハードディスク内のアプリケーションを誤って削除してしまい、追加できない
- ・ 本機内蔵のハードディスクを購入時と異なるドライブ構成で使いたい

## 再セットアップに関する注意

- ・ バックアップCD-ROMで再セットアップできるのは、本機に標準で添付されていたソフトウェアのみです。お客様ご自身が、後からインストールされたアプリケーションや、作成されたデータは復元されません。お客様ご自身が後から変更した設定やデータはすべて消え初期状態に戻ります。本機を購入後、お客様が接続した周辺機器の設定はシステムの再セットアップ後にもう一度、設定し直してください。周辺機器の設定については『Microsoft® Windows® 95 ファーストステップガイド』または『ステップアップガイド』や周辺機器のマニュアルをご覧ください。また、再セットアップを行う前に大切なデータは必ずバックアップをとっておいてください。
- ・ ハードディスクの領域が複数ある場合、再セットアップは、第1パーティション(☞P. 33)の領域に対して行うようになっています。
- ・ 再セットアップ中は、フロッピーディスクから「Windows 95再セットアップ」を起動して行うようになっているため、次のようなドライブ構成となります。

フロッピーディスクドライブ	Aドライブ
ハードディスクの第1パーティション	Bドライブ
CD-ROMドライブ	Qドライブ

ただし、フロッピーディスクドライブを増設している場合、ハードディスクの第1パーティションがCドライブになることがあります。

- ・ 「再セットアップが終了しました」というメッセージが画面に表示されなかった場合は、再セットアップは正常に終了していません。初めから再セットアップをやりなおしてください。

- ・ 実際に表示される画面は、お使いの機種によって、本文中の画面と一部異なる場合があります。
- ・ 2Gバイト以上のハードディスクを搭載した機種でパーティションを再分割する場合、領域確保できるパーティションあたりの最大サイズは2047Mバイトです。2047Mバイトを超える場合は、複数のパーティションに分割されます。
- ・ 本機にインストールされているアプリケーションの中には、それぞれ個々に削除したり追加したりできるものもあります。詳しくは『アプリケーション操作ガイド』をご覧ください。

## 準備するもの

本機に添付されている、次のCD-ROM、フロッピーディスク、マニュアルを準備してください。

- ・ バックアップCD-ROM
- ・ システムインストールディスク
- ・ Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド

model D3(Word & Excelインストールモデル)をお使いの場合は、次のCD-ROMもご用意ください。

- ・ Microsoft® Excel 97 & Word 97 & Outlook™ 97 for Windows®のCD-ROM



model C3(一太郎Office8インストールモデル)をお使いの場合、一太郎Office8はバックアップCD-ROMの中にすべて入っていますので、「一太郎Office8」のCD-ROMは必要ありません。

## 必要ハードディスクの空き容量

カスタム再セットアップで領域を複数に分割する場合、再セットアップには、ハードディスクに次の容量が必要になります。






- ・ model C3(一太郎Office8 インストールモデル) 1,250Mバイト以上
- ・ model D3(Word & Excelインストールモデル) 1,150Mバイト以上

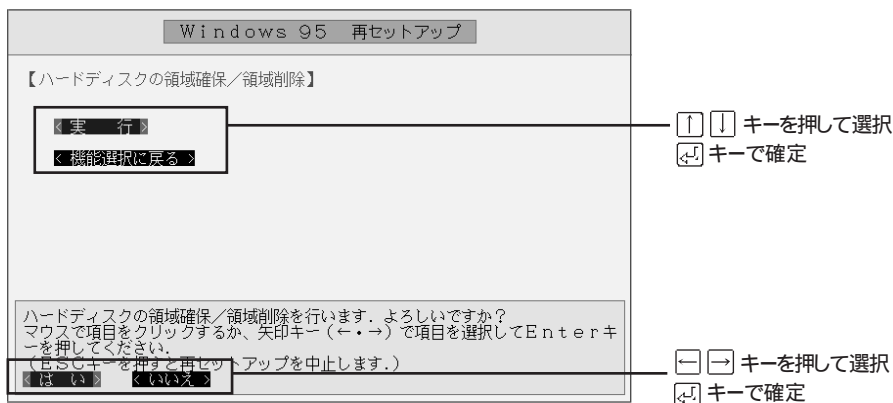
## 操作方法について

### [Windows 95再セットアップ]画面での操作方法

[Windows 95再セットアップ]画面での操作は、キーボードでもマウスでも行うことができます。次に、操作方法について例を示します。

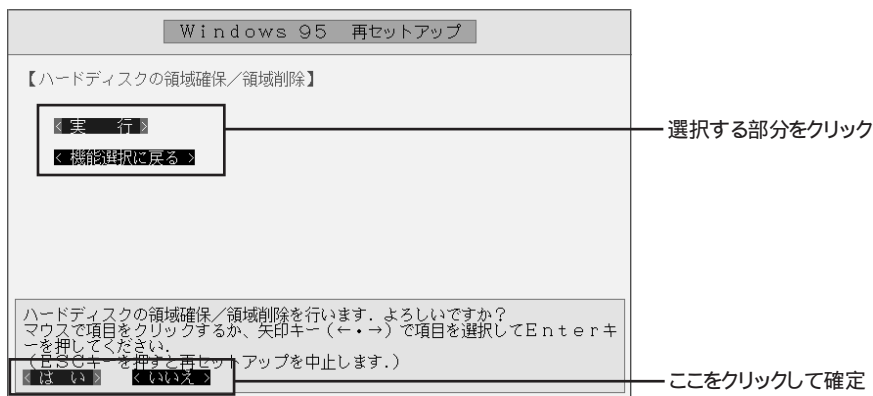
#### ・ キーボードで操作する

本文中で「選択する」と表記されている場合は、    キーを押して選択した項目の表示色を変えます。 キーを押して確定します。



#### ・ マウスで操作する

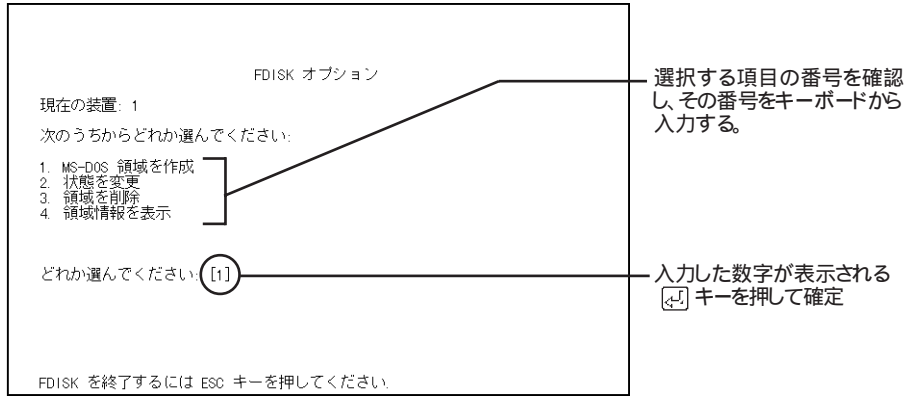
本文中で「選択する」と表記されている場合は、選択する部分をクリックします。



マウスで操作できるのは[Windows 95再セットアップ]の画面のみです。その他の[FDISKオプション]の画面は、マウスでは操作できません。

## [ Windows 95再セットアップ 画面以外での操作方法

[ FDISK オプション ] 画面などでは、キーボードで操作します。



# 再セットアップする手順.....

## model C3(一太郎Office8 インストールモデル)の場合

### 標準再セットアップ(推奨)

簡単にセットアップしたい方、または購入時と全く同じドライブ構成で使いたい方は、次の手順でセットアップしてください。

1. 簡単にセットアップする

2. Windows 95の設定をする

購入時と同じ状態に戻す場合の再セットアップ方法です。

### カスタム再セットアップ

領域の確保やドライブの初期化(フォーマット)などの作業を自分で行います。ドライブを再構成して、領域のサイズを自分で設定します。購入時と異なるドライブ構成で使いたい方は、次の手順で再セットアップしてください。

必須  どちらかを選択

1. 領域を削除する

2. 領域を確保する

2-A. 最大のサイズを割り当てる

2-B. 領域を分割する

3. ドライブをフォーマットする

4. システムを再セットアップする

5. Windows 95の設定をする

独自にシステム環境を設定する場合の再セットアップ方法です。



## model D3(Word & Excel インストールモデル)の場合

### 標準再セットアップ(推奨)

簡単にセットアップしたい方、または購入時と全く同じドライブ構成で使いたい方は、次の手順でセットアップしてください。

1. 簡単にセットアップする

2. Windows 95の設定をする

3. Word・Excel・Outlookを再セットアップする

購入時と同じ状態に戻す場合の再セットアップ方法です。

### カスタム再セットアップ

領域の確保やドライブの初期化(フォーマット)などの作業を自分で行います。ドライブを再構成して、領域のサイズを自分で設定します。購入時と異なるドライブ構成で使いたい方は、次の手順で再セットアップしてください。

必須  どちらかを選択

1. 領域を削除する

2. 領域を確保する

2-A. 最大のサイズを割り当てる

2-B. 領域を分割する

3. ドライブをフォーマットする

4. システムを再セットアップする

5. Windows 95の設定をする

6. Word・Excel・Outlookを再セットアップする

独自にシステム環境を設定する場合の再セットアップ方法です。

# 標準再セットアップ

購入時と全く同じドライブ構成にしたい場合に、この方法で再セットアップしてください。簡単に再セットアップできるため、初心者の方向けの再セットアップ方法です。

実際に表示される画面は、お使いの機種やモデルによって、本文中の画面と一部異なる場合があります。

## 1. 簡単に再セットアップする.....

この手順で再セットアップを行うと、ハードディスクの領域はご購入時と同じ状態に分割されます。

領域の削除や領域の確保からシステムの再インストールまで自動的に行われるので、簡単に再セットアップを行うことができます。



- ・ 標準再セットアップを行うと、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルはすべて削除されます。大切なデータやファイルがある場合は、必ずフロッピーディスクなどに保存してください。
- ・ 再セットアップは途中で中断しないでください。もし、中断した場合は、最初からやり直してください。
- ・ 本機を購入後、お客様が接続した周辺機器は全て取り外してから、再セットアップを行ってください。

**1** 本体の電源をONにします。

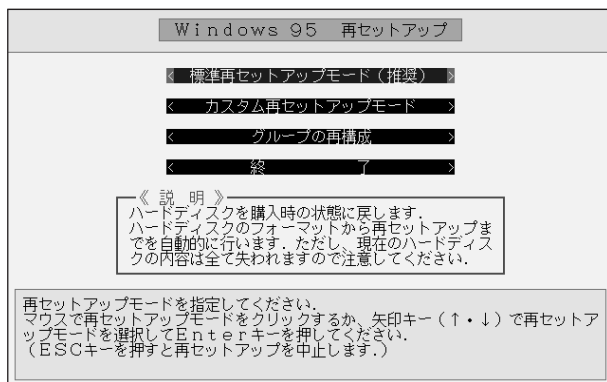
**2** 電源表示用LEDが点灯したら、すぐに「(起動用)」と書かれたシステムインストールディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。





フロッピーディスクのセットが遅かった場合、手順3の画面は表示されません。その場合は、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源をOFFにして、再度手順1、2の操作を行ってください。

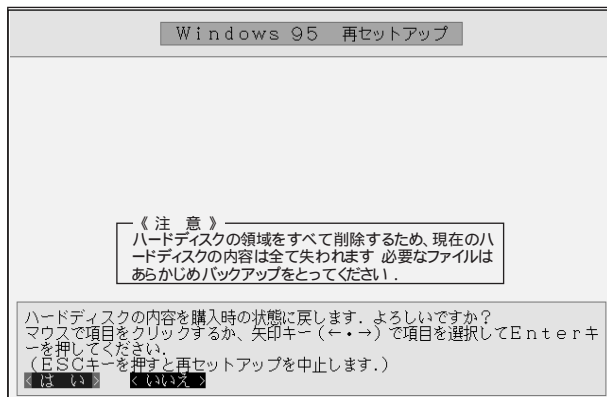
お使いの機種により、再セットアップについての注意事項を説明した画面が表示される場合があります。内容をよくお読みのうえ、何かキーを押してください。

- 3** 次の画面が表示されたら、バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。  
バックアップCD-ROMが複数枚ある場合は、「(1枚目)」と書かれたCD-ROMをセットします。



CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする方法やCD-ROMドライブから取り出す方法については、『ステップアップガイド』をご覧ください。

- 4** [標準再セットアップモード(推奨)] を選択して  キーを押します。
- 5** [はい] を選択して  キーを押します。



ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップが自動的に始まります。ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップには、40～50分程度かかります(再セットアップに要する時間は、お使いの機種・モデルによって異なります)。また、画面中央にハードディスクのフォーマットの進み具合がパーセントで表示されますのでご覧ください。

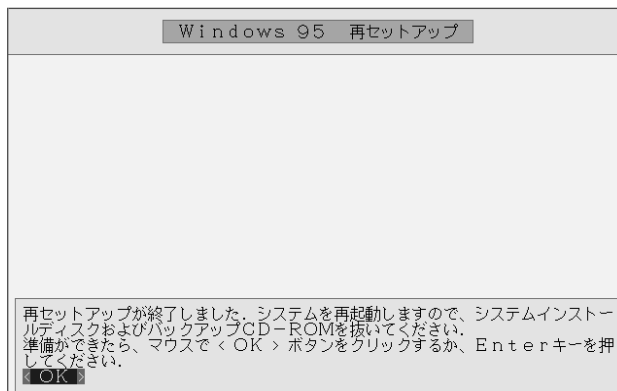
途中でフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示される場合は、画面の指示にしたがってフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えてください。




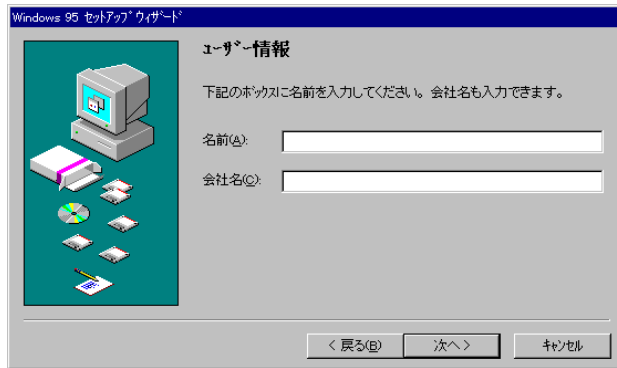
- ・ ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップ中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMを取り出したり、フロッピーディスクを取り出したりしないでください。また電源スイッチを押したりしないでください。
- ・ 再セットアップ中に数回ビープ音が鳴りますが、問題ありませんので無視してください。

## 6 ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップが終了すると次の画面が表示されます。

フロッピーディスクドライブからシステムインストールディスクを、CD-ROMドライブからバックアップCD-ROMを取り出してください。



- 7** [ OK ] をクリックするか、 キーを押してください。  
自動的にシステムが再起動し、しばらくすると「Windows 95 セットアップ  
ウィザード」の画面が表示されます。



次に「2 Windows 95の設定をする」に進んでください。

## 2. Windows 95の設定をする.....

システムの再セットアップが終わったら、初めて本機の電源をONにしたときと同じように、Windows 95の設定をする必要があります。

**1** [ユーザー情報]の画面で、キーボードを使って名前と会社名を入力します。



- ・ ユーザー情報は、Windows 95のライセンスを受けている人の情報を入力してください。
- ・ 会社名は入力しなくてもかまいません。ただし、セットアップ完了後に変更することはできません。
- ・ 名前を入力しないと、次の手順に進むことはできません。
- ・ ここで入力した名前は、セットアップ完了後に変更することはできませんので、ご注意ください。



文字の入力は、ローマ字でも、漢字やカタカナでもかまいません。

ここでは、漢字で「田中」と入力する場合を説明します。

「たなか」と入力します。

キーボードの **T A N A K A** を押します。

キーボードの  (スペース)キーを押します。

入力した文字が漢字に変換されて **田中** のように表示されます。

変換したい漢字が表示されない場合は、キーボードの  (スペース)キーを押します。

キーボードの  キーを押します。

変換した漢字が確定されます。

- ・ 難しい読み方の名前などを入力する場合は、まず ~ の手順で「た」を変換し、次にもう一度 ~ の手順で「なか」を入力するというように、漢字1文字ごとに区切って入力してください。

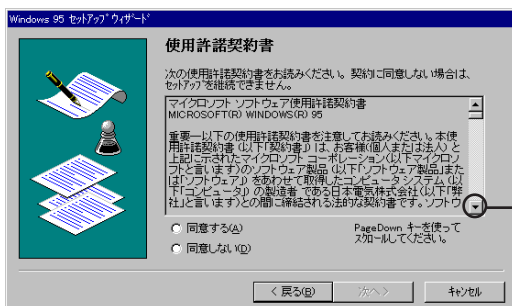
- ・ ひらがなを入力して、キーボードの  (スペース) キーを押さずに  キーを押すと、ひらがなのまま確定することができます。
- ・ 間違えて入力してしまった場合は、 キーを押すことで1文字ずつ削除することができます。

文字入力に関する詳しい説明は『かんたんスタートガイド』を、キーボードに関する詳しい説明は『ステップアップガイド』の「キーボード」をご覧ください。

**2** 入力が終わったら **[ 次へ ]** ボタンをクリックします。

**3** **[ 使用許諾契約書 ]** を確認します。確認が終わったら **[ 同意する ]** をクリックし、**[ 次へ ]** ボタンをクリックします。

**[ 使用許諾契約書 ]** は大切な情報ですので、画面をスクロールして、必ずお読みください。



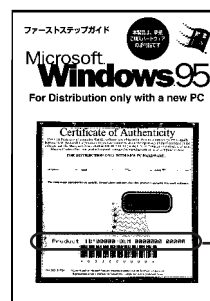
スクロールボタンをクリックまたは、キーボードの  キーを押すと、画面がスクロールする



**[ 同意しない ]** をクリックするとセットアップが中止されます。

**4** 次の画面が表示されます。キーボードを使ってProduct IDを半角文字で入力します。

Product IDは添付の『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』の表紙に記載されています。



Product IDはここに記載されています。

(表紙のデザインは、実際のも  
のとは異なる場合があります)



0(ゼロ)とO(オー)、1(イチ)とI(アイ)など、似ている文字を間違えないように注意してください。

---



『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』は紛失しないように気を付けてください。  
表紙に記載されている「Product ID」がないと、再セットアップできません。

---

## 5 入力が終わったら[次へ]ボタンをクリックします。



数字を入れ間違えたときは、「次へ」ボタンをクリックすると、「入力された Certificate of Authenticityの番号は無効です」というメッセージが表示されます。「再入力」をクリックすると、再度Product IDを入れる画面に戻ります。まず、「Microsoft Windows95ファーストステップガイド」の表紙を見て、画面に表示されているProduct IDの番号が正しいか確認してください。間違っていたら、番号を間違えた欄の右端に矢印の先端を合わせ、クリックします。そのあと **BS** キーを押して、後ろから数字を消していき、正しい番号を打ち直してください。

---

## 6 次の画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。



ここでの完了は、本機のセットアップすべての完了ではありません。絶対に電源をOFFにしないでください。

---



- 7** 自動的にシステムが再起動します。  
しばらくすると、次のような画面が表示されます。

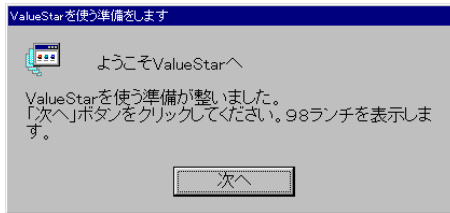


ここでWindows 95のデスクトップ画面が表示されますが、本機のセットアップはまだ完了していません。ここでは、アプリケーションソフトを起動したりせずに、必ず手順8以降の操作を行ってセットアップを完了させてください。セットアップを完了しないと誤動作の原因となります。

- 8** [スタート]ボタンをクリックするとスタートメニューが表示されるので、[ValueStarを使う準備をします]にマウスポインタを合わせてクリックします。



**9** 次の画面が表示されるので「次へ」ボタンをクリックします。



**10** 次のような「98ランチ」の画面が表示されます。



これで、Windows 95の設定は終了です。

model C3をお使いの場合は、以上で標準再セットアップの作業は終了しました。

model D3をお使いの場合は、次に「3. Word・Excel・Outlookを再セットアップする」に進んでください。

### 3. Word・Excel・Outlookを再セットアップする.....

model D3に関する内容です。  
model C3では、以下の作業は行いません。

Word・Excel・Outlookを利用できるようにするには以下の設定が必要です。

- ・ Word 97を再セットアップする
- ・ Excel 97を再セットアップする
- ・ Outlook 97を再セットアップする
- ・ グループを再構成する

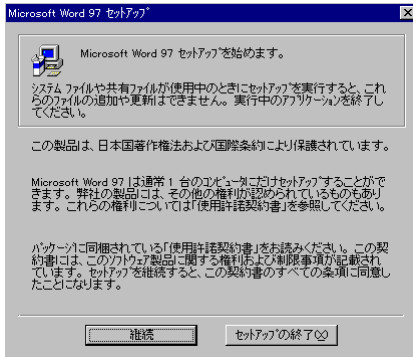
#### Word 97を再セットアップする

- 1 「Microsoft® Excel 97 & Word 97 & Outlook™ 97 for Windows®」のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。  
自動的に次の画面が表示されます。

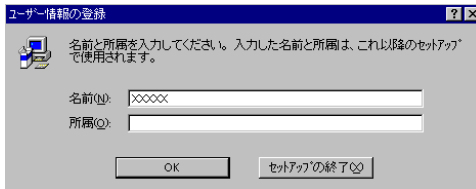


- 2 [Microsoft Word 97のセットアップ] ボタンをクリックします。  
Word 97のセットアッププログラムが起動します。

### 3 [ 継続 ] ボタンをクリックします。



### 4 [ ユーザー情報の登録 ] の画面が表示されたら [ OK ] ボタンをクリックします。



「名前」と「所属」には、Windows 95のユーザ情報が表示されます。  
変更する場合は入力しなおしてください。

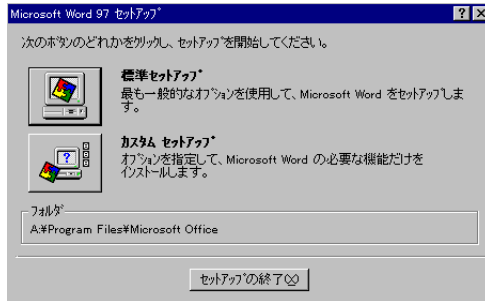
### 5 [ ユーザー情報の確認 ] の画面が表示されたら、[ OK ] ボタンをクリックします。

### 6 [ プロダクトID ] の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックしてください。 次の画面が表示されます。

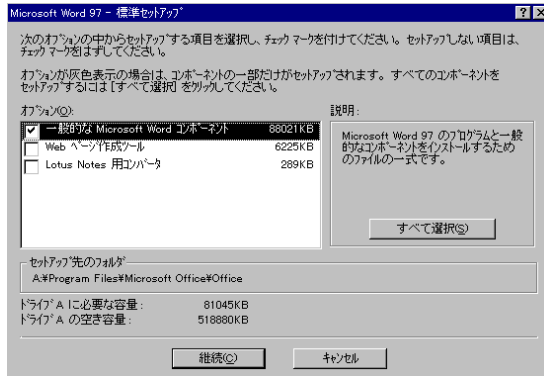


### 7 [ OK ] ボタンをクリックします。

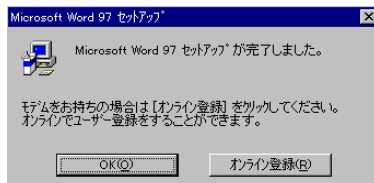
## 8 [標準セットアップ] ボタンをクリックします。



## 9 [ 継続 ] ボタンをクリックします。 Word 97のセットアップが始まります。



## 10 セットアップが終了すると、次の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。



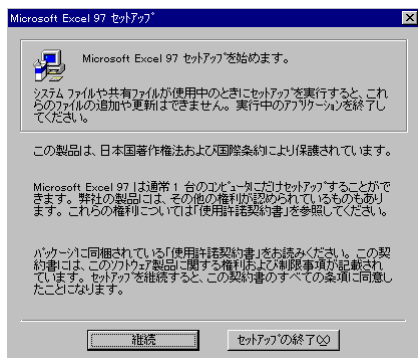
次の画面が表示されます。



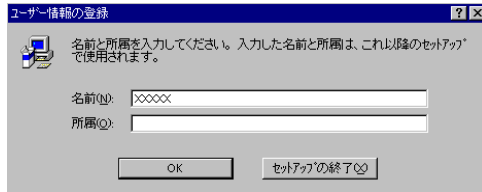
これで、Word 97の再セットアップは完了です。  
次にExcel 97の再セットアップを行います。

## Excel 97を再セットアップする

- 1 [Microsoft Excel 97のセットアップ] ボタンをクリックします。  
Excel 97のセットアッププログラムが起動します。
- 2 [ 継続 ] ボタンをクリックします。



### 3 [ユーザー情報の登録]の画面が表示されたら[ OK ]ボタンをクリックします。



- ・「名前」と「所属」にはWindows 95のユーザ情報が表示されます。変更する場合は、入力しなおしてください。
- ・「Word 97を再セットアップする」の手順4で「名前」や「所属」を変更している場合は、その「名前」や「所属」が表示されます。

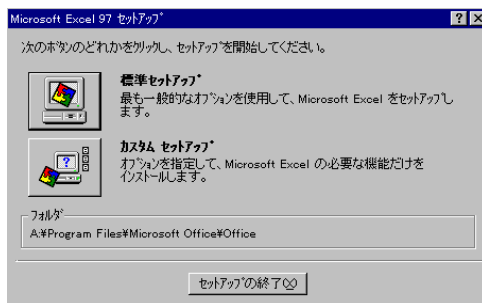
### 4 [ユーザー情報の確認]の画面が表示されたら[ OK ]ボタンをクリックします。

### 5 [プロダクトID]の画面が表示されるので[ OK ]ボタンをクリックします。

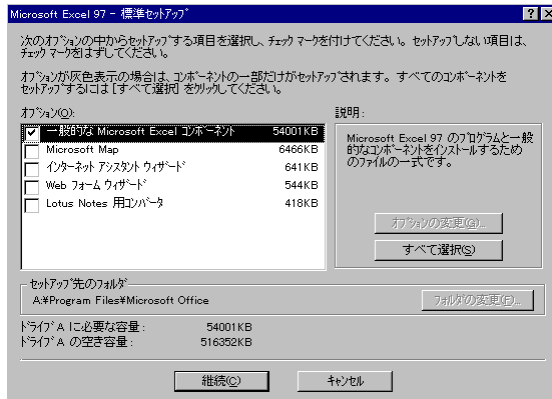
### 6 [ OK ]ボタンをクリックします。



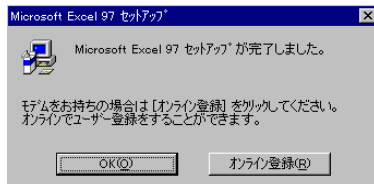
### 7 [標準セットアップ]ボタンをクリックします。



- 8 [ 継続 ] ボタンをクリックします。  
Excel 97のセットアップが始まります。



- 9 セットアップが終了すると、次の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。



次の画面が表示されます。

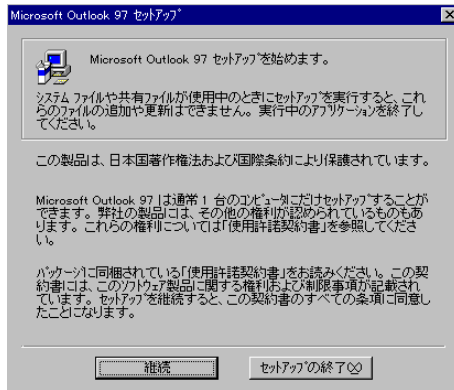


これで、Excel 97の再セットアップは完了です。  
次にOutlook 97の再セットアップを行います。

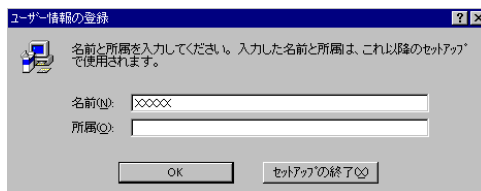


## Outlook 97を再セットアップする

- 1 [Microsoft Outlook 97のセットアップ] ボタンをクリックします。Outlook 97のセットアッププログラムが起動します。
- 2 [ 継続 ] ボタンをクリックします。



- 3 [ユーザー情報の登録] の画面が表示されたら [ OK ] ボタンをクリックします。



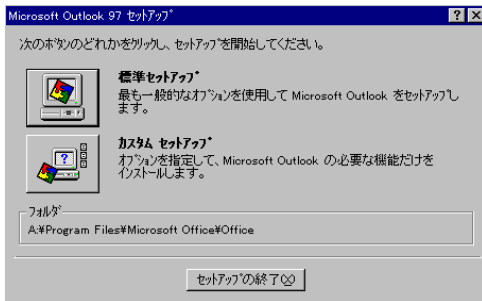
- ・「名前」と「所属」にはWindows 95のユーザ情報が表示されます。変更する場合は入力しなおしてください。
- ・「 Word 97を再セットアップする 」の手順4または「 Excel 97を再セットアップする 」の手順3で「名前」や「所属」を変更している場合は、その「名前」や「所属」が表示されます。

- 4 続いて [ユーザー情報の確認] の画面が表示されますので、[ OK ] ボタンをクリックします。
- 5 [ プロダクトID ] の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。

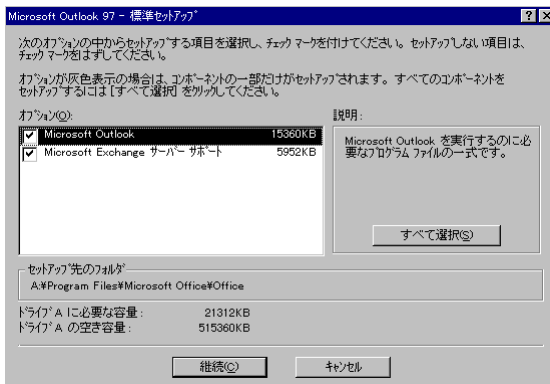
## 6 [ OK ] ボタンをクリックします。



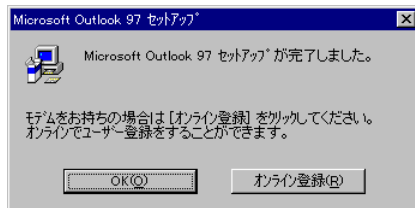
## 7 [ 標準セットアップ ] ボタンをクリックします。



## 8 [ 継続 ] ボタンをクリックします。 Outlook 97のセットアップが始まります。



- 9 セットアップが終了すると、次の画面が表示されるので、**OK** ボタンをクリックします。



- 10 次の画面が表示されるので、画面右上の **X** ボタンをクリックして画面を閉じます。



- 11 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出します。

これでOutlook 97の再セットアップは完了です。

次に、「グループを再構成する」の作業を行ってください。



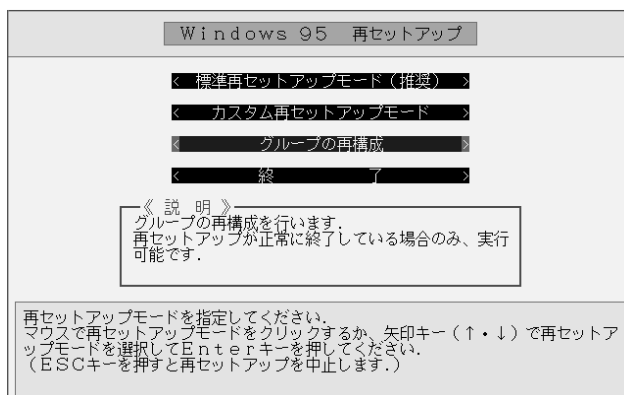
本機をご利用中に、Word、Excel、Outlookを削除される場合は、あとから再セットアップしたアプリケーションから削除を始めてください。

例 Word、Excel、Outlookの順番で再セットアップをした場合は、Outlook、Excel、Wordの順番でアプリケーションの削除をしてください。

## グループを再構成する

98ランチのメニューにWord・Excel・Outlookのアイコンを登録します。

- 1** Windows 95を終了します。  
Windows 95の[スタート]メニューで[Windowsの終了]をクリックします。  
[Windowsの終了]ダイアログボックスで「コンピュータの電源を切れる状態にする」を選択して、[はい]ボタンをクリックしてください。電源がOFFになります。
- 2** 本体の電源をONにします。
- 3** 電源表示用LEDが点灯したら、すぐに「(起動用)」と書かれたシステムインストールディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。  
お使いの機種により「再セットアップについて」の画面が表示されますので、何かキーを押してください。
- 4** [グループの再構成]を選択して  キーを押します。



- 5** 「グループの再構成を行います よろしいですか?」と表示されるので、[はい]を選択して  キーを押します。  
グループの再構成が実行されます。終了すると「グループの再構成が終了しました。」というメッセージ画面が表示されます。
- 6** フロッピーディスクドライブからシステムインストールディスクを取り出し、[OK]をクリックするか、 キーを押してください。  
自動的にシステムが再起動し、しばらくすると「Windows 95へようこそ」の画面が表示されます。[閉じる]ボタンをクリックしてください。

以上でWord・Excel・Outlookの再セットアップの作業は終了しました。

これで標準再セットアップの作業はすべて終了しました。

# カスタム再セットアップ

パソコンの知識があり、ドライブを再構成して領域のサイズを自分で設定したい場合などに、この方法で再セットアップしてください。

実際に表示される画面は、お使いの機種やモデルによって、本文中の画面と一部異なる場合があります。

1

Windows 95と添付アプリケーションの再セットアップ

## 1. 領域を削除する.....

カスタム再セットアップを行うには、まず再セットアップ先となるドライブの領域の削除の作業が必要です。



- ハードディスクのすべての領域を削除すると、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルはすべて削除されます。  
大切なデータやファイルがある場合は、必ずフロッピーディスクなどに保存してください。
- 再セットアップは途中で中断しないでください。もし、中断した場合は、最初からやり直してください。
- 本機を購入後、お客様が接続した周辺機器は全て取り外してから、再セットアップを行ってください。

**1** 本体の電源をONにします。

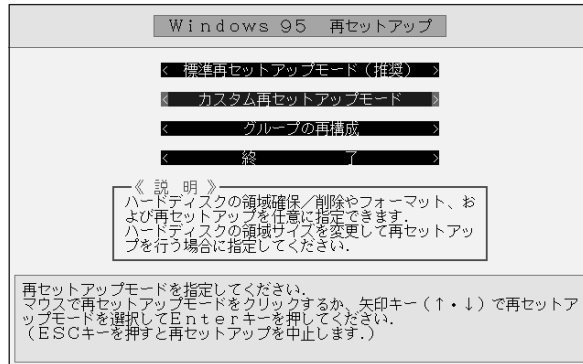
**2** 電源表示用LEDが点灯したら、すぐに「(起動用)」と書かれたシステムインストールディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。



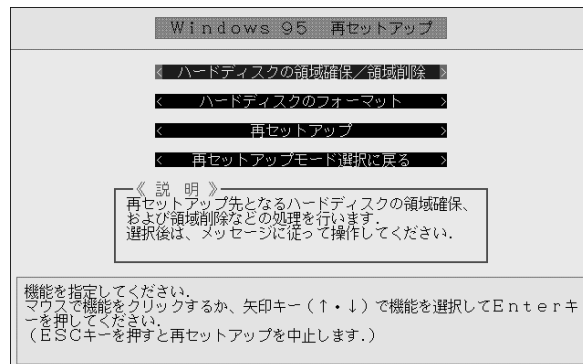
フロッピーディスクのセットが遅かった場合、手順3の画面は表示されません。その場合は、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源をOFFにして、再度、手順1、2の操作を行ってください。

お使いの機種によっては、再セットアップについての注意事項を説明した画面が表示されます。内容をよくお読みのうえ、何かキーを押してください。

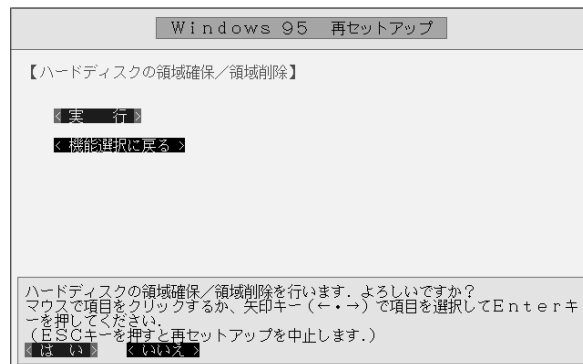
### 3 [カスタム再セットアップモード] を選択して、 キーを押します。



### 4 [ハードディスクの領域確保/領域削除] を選択して、 キーを押します。



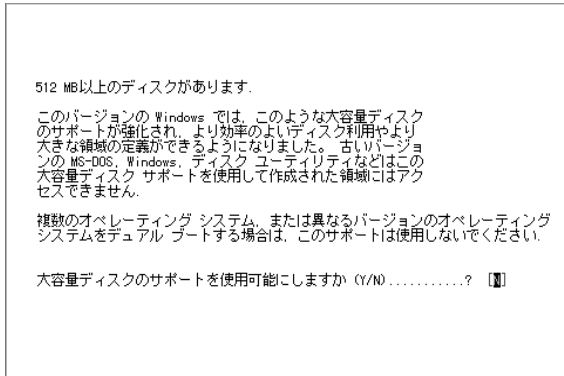
### 5 [実行] を選択して キーを押します。



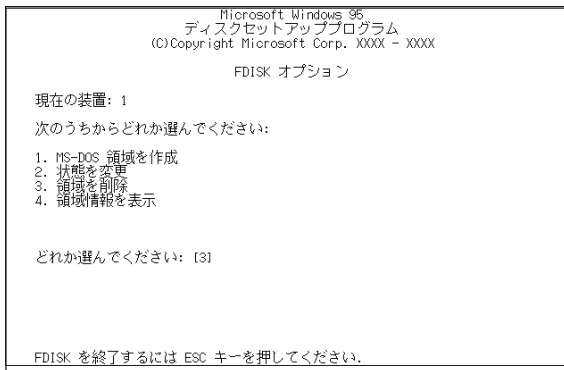
**6** 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N).....?」と表示されたら、**[N]** キーを押して **[↵]** キーを押します。




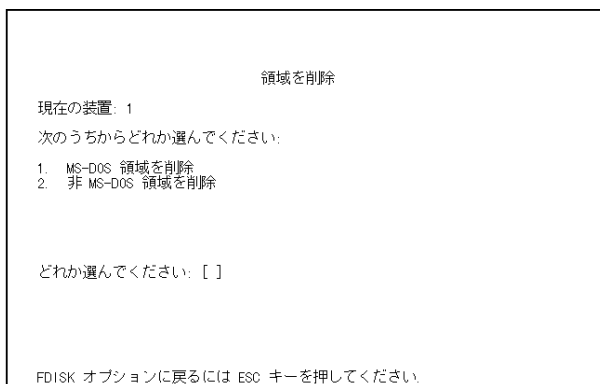
ここでは、必ず「N」を選択してください。




**7** [3 領域を削除] を選択して **[↵]** キーを押します。



- 8** [ 1 MS-DOS領域を削除 または 2 非MS-DOS領域を削除 ]のどちらかを選択した後、 キーを押してください。Windows 95を使用していた領域は、MS-DOS領域ですので、通常は[ 1 MS-DOS領域を削除 ]を選択してください。

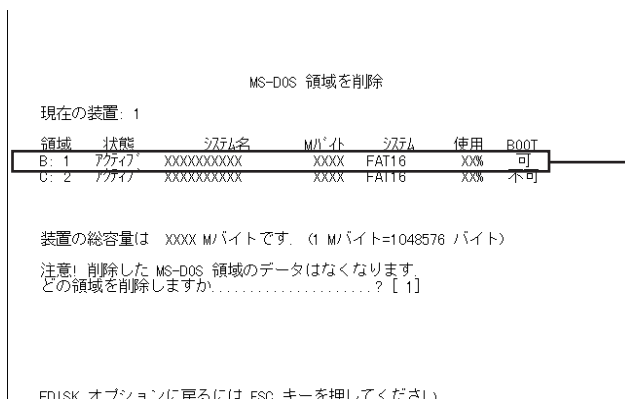


MS-DOS領域が存在しない状態で[ 1. MS-DOS領域を削除 ]を選択する、または、非MS-DOS領域が存在しない状態で[ 2. 非MS-DOS領域を削除 ]を選択すると、「削除するXXX領域はありません」と表示されます。

この場合、 キーを押すと手順7の画面に戻ります。再度、手順7、8をやりなおしてください。

非MS-DOS領域とは、MS-DOSまたはWindows 95で直接利用できない形式でフォーマットされた領域のことです。

- 9** 削除する領域を選択し、 キーを押します。



ハードディスクの第1パーティションの領域は必ず削除する



お使いの機種およびシステムの状況によって、表示される画面の内容は異なります。



再セットアップは、ハードディスクの第1パーティションの領域に対して行いますので、必ず第1パーティションの領域は削除してください。



次のようなメッセージが表示されます。

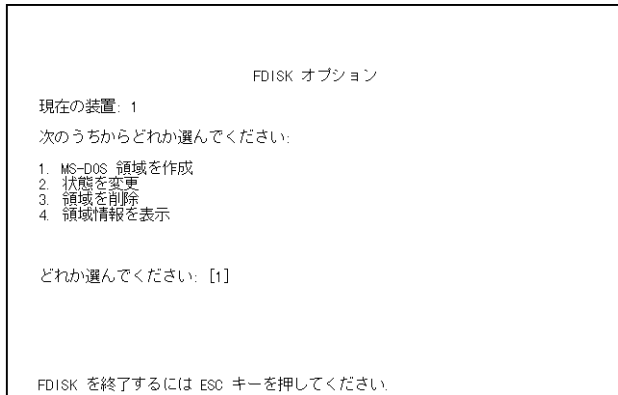
よろしいですか(Y/N).....?

- 10**  キーを押し、続けて  キーを押します。  
 領域が削除されます。  
 削除したい領域が複数ある場合は、手順9、10を繰り返してください。



システムがセットアップされていた領域は必ず削除してください。それ以外の領域を削除する必要はありません。

- 11** 領域の削除が終了したら、**[ESC]** キーを押して次の「FDISK オプション」画面を表示させておいてください。



次に「2. 領域を確保する」に進んでください。

## 2. 領域を確保する.....

一度削除した領域は、領域を確保する作業が必要になります。領域は削除した領域の容量だけ確保することができます。

ハードディスク内の容量が2Gバイト以下で、すべての領域が削除されていれば、1つの領域として確保することもできます。また、領域は複数に分割することもできます。

### 例1 最大サイズを割りあてる

- ・ ハードディスクの容量が1000Mバイトある場合

Aドライブ 1000Mバイト
-------------------

- ・ ハードディスクの容量が3000Mバイトある場合

Aドライブ 2047Mバイト	Bドライブ 953Mバイト
-------------------	------------------



ハードディスクの容量で、MS-DOS 6.2およびWindows 95で確保可能な領域の最大サイズは2047Mバイトです。したがって、内蔵のハードディスクが2047Mバイト以上ある場合は、1つの領域としてハードディスク全体を利用することはできません。

---

## 例2 2つの領域に分割する

- ・ハードディスクの容量が3000Mバイトある場合

Aドライブ 1800Mバイト	Bドライブ 1200Mバイト
-------------------	-------------------



- ・再セットアップ中は、フロッピー - ディスクドライブから[ Windows 95再セットアップ ]を起動しているため、フロッピーディスクドライブがAドライブ、ハードディスクの第1パーティションがBドライブ(以降C、D...)と表示されています。なお、フロッピーディスクドライブを増設している場合は、第1パーティションがCドライブになることがあります。
- ・ハードディスクを複数に分割した場合、1番目の領域を第1パーティションといいます。



上記の例の場合、セットアップ先はAドライブ(第1パーティション)となりますので、Aドライブは、購入時の状態に戻すために必要な領域のサイズをご確認の上、作業を進めてください。(P.3)

削除した領域に最大のサイズを割りあてる場合には、


「2-A. 最大のサイズを割りあてる」を、

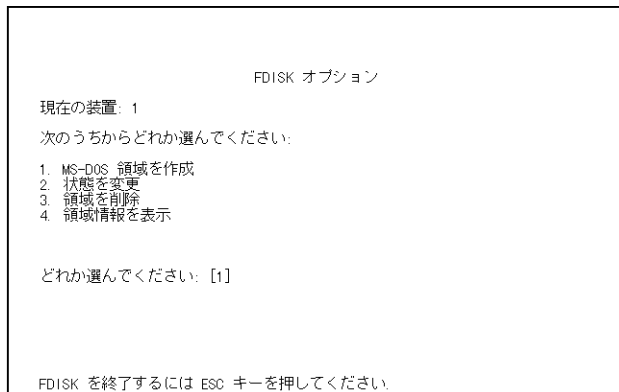
複数に分割する場合には、



「2-B. 領域を複数に分割する」を、

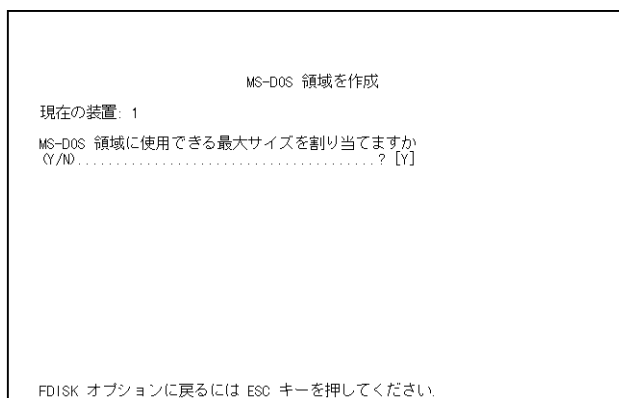
ご覧ください。

## 2-A. 最大のサイズを割りあてる


- 1** 次の画面が表示されていることを確認してください。  
[ 1 MS-DOS領域を作成 ]を選択して  キーを押します。




- 2** 次の画面が表示されたら、 キーを押して  キーを押してください。



「MS-DOS領域を作成しました」というメッセージが表示されます。

- 3**  キーを押してください。  
[ FDISKオプション ]の画面が表示されます。




ハードディスクにまだ空き容量がある場合は、 キーを押し、手順1～3をくり返して、残りの容量を確保してください。



- 4** [ 2 状態を変更 ]を選択して  キーを押してください。


**5** 変更したい領域の番号を入力して、 キーを押します。



ハードディスクの第1パーティション( P. 33 )の領域は手順6 ~ 8の操作を行って、必ずBOOTを「可」にしてください。

**6** 「1 アクティブ/2 スリープ」と表示されるので、**1** キーを押して、 キーを押します。

**7** 「システム名を入力してください」と表示されるので、変更がなければ  キーを押します。変更したい場合はシステム名を入力し  キーを押します。

**8** 「1 BOOT可/2 BOOT不可」と表示されるので、**1** キーを押して、 キーを押します。これで、BOOTが「可」になりました。

**9** **[ESC]** キーを押します。  
[FDISKオプション]の画面が表示されます。

**10** [4 領域情報を表示]を選択して  キーを押してください。

**11** 削除したすべての領域が作成されており、第1パーティションの領域のBOOTが「可」になっていることを確認したら、**[ESC]** キーを押してください。

領域情報を表示


現在の装置: 1

領域	状態	システム名	M/バイト	システム	使用	BOOT
B: 1	アクティブ	XXXXXXXXXX	XXXX	FAT16	XXX%	可
C: 2	アクティブ	XXXXXXXXXX	XXXX	FAT16	XXX%	不可

「可」になっていることを確認する

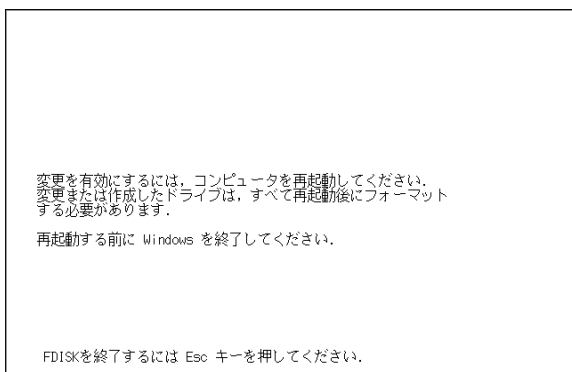
装置の総容量は XXXX M/バイトです。(1 M/バイト=1048576 バイト)

続けるには ESC キーを押してください。

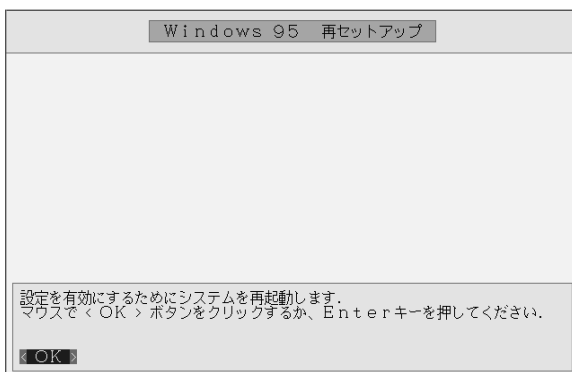
 お使いのシステムの状況によって、表示される画面の内容は異なります。

**12** [FDISKオプション]の画面が表示されますので、**[ESC]** キーを押してください。

**13** 表示されるメッセージをよく読んで、**[ESC]**キーを押します。



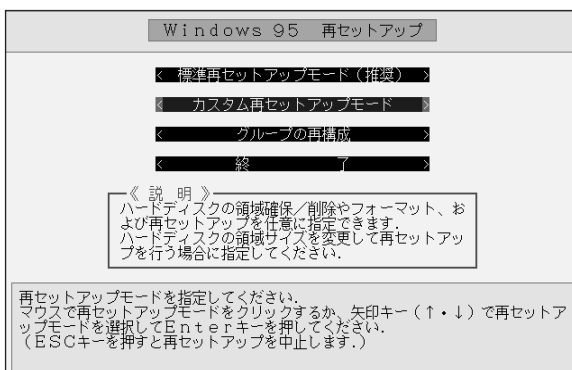
**14** **[OK]** をクリックするか、**[Enter]** キーを押します。



本機が自動的に再起動します。

お使いの機種により「再セットアップについて」の画面が表示されますので、何かキーを押してください。

**15** 次の手順へ進むため**[カスタム再セットアップモード]** を選択して、**[Enter]** キーを押してください。





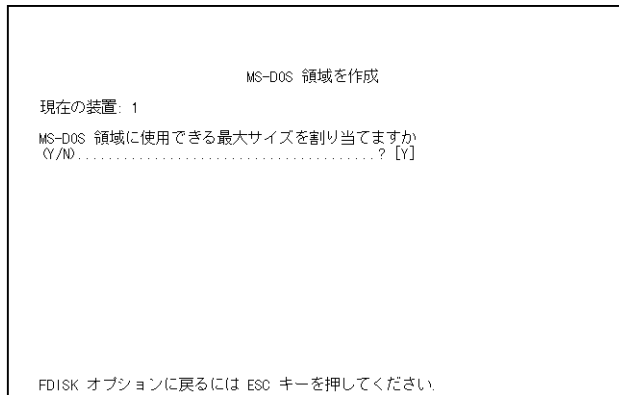
これで領域確保は終了しました。


次に「3. ドライブをフォーマットする」に進んでください。

## 2-B. 領域を複数に分割する

ハードディスクの領域は複数に分けることができます。

- 1 [FDISKオプション]の画面で、[1 MS-DOS領域を作成]を選択して  キーを押します。
- 2 次の画面が表示されたら、**[N]** キーを押して  キーを押してください。



- 3 「MS-DOS領域を作ります...?」と表示されたら、確保したい領域のサイズを、Mバイト単位または全体に対する割合で入力し、 キーを押してください。


例 3000Mバイトのハードディスクに、1800Mバイトの領域を確保する場合

バイト単位で入力する場合	「1800」と入力
全体に対する割合で入力する場合	「60%」と入力



ハードディスクの容量で、MS-DOS 6.2およびWindows 95で確保可能な領域の最大サイズは2047Mバイトです。



システムを再セットアップするために必要なシステム領域のサイズは、機種(モデル)ごとに異なります。「必要ハードディスクの空き容量」( P.3)をご覧ください、お使いの機種に合わせて領域を確保してください。

手順3を繰り返して、複数の領域を確保します。

- 4 領域の作成が終了した後、**[ESC]** キーを押してください。  
[FDISKオプション]の画面が表示されます。



**5** [ 2 状態を変更 ] を選択して  キーを押してください。


**6** 変更したい領域の番号を入力して、 キーを押します。



ハードディスクの第1パーティション( P. 33 )の領域は手順7 ~ 9の操作を行って、必ずBOOTを「可」にしてください。

**7** 「1 アクティブ/2 スリープ」と表示されるので、**1** キーを押して、 キーを押します。

**8** 「システム名を入力してください」と表示されるので、変更がなければ  キーを押します。変更したい場合はシステム名を入力し  キーを押します。

**9** 「1 B00T可/2 B00T不可」と表示されるので、**1** キーを押して、 キーを押します。これで、B00Tが「可」になりました。

**10** **ESC** キーを押します。  
[ FDISKオプション ]の画面が表示されます。

**11** [ 4. 領域情報を表示 ] を選択して  キーを押してください。

**12** 削除したすべての領域が作成されており、第1パーティションの領域のB00Tが「可」になっていることを確認したら、**ESC** キーを押してください。

領域情報を表示

現在の装置: 1

領域	状態	システム名	Mバイト	システム	使用	B00T
B: 1	アクティブ	XXXXXXXXXXXX	XXXX	FAT16	XXX%	可
C: 2	アクティブ	XXXXXXXXXXXX	XXXX	FAT16	XXX%	不可

装置の総容量は XXXX Mバイトです。(1 Mバイト=1048576 バイト)

続けるには ESC キーを押してください。

「可」になっていることを確認する

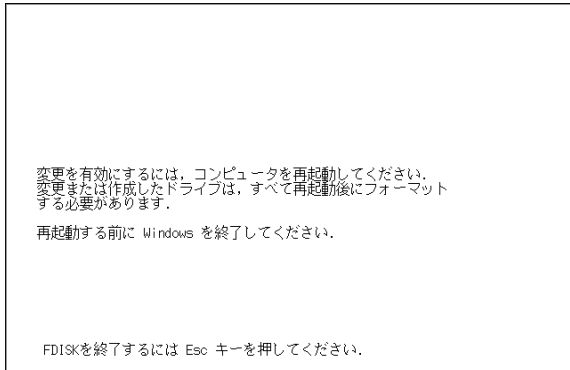


お使いの機種およびシステムの状況によって、表示される画面の内容は異なります。

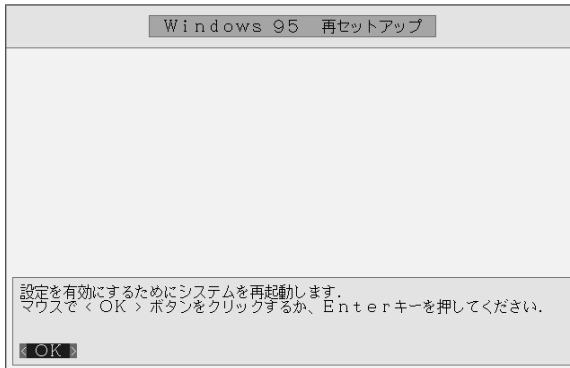
**13** [ FDISKオプション ]の画面が表示されますので、**ESC** キーを押してください。



**14** 表示されるメッセージをよく読んで、**[ESC]**キーを押します。



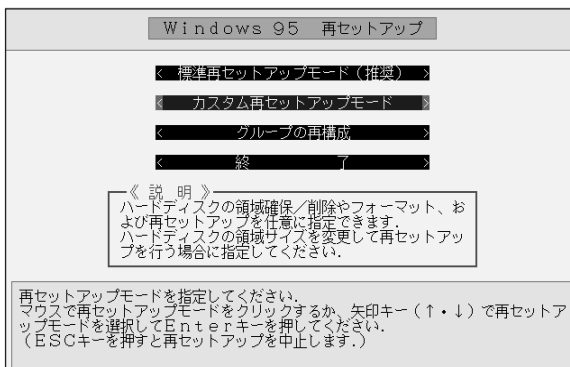
**15** **[OK]** をクリックするか、**[Enter]** キーを押します。



本機が自動的に再起動します。

お使いの機種により「再セットアップについて」の画面が表示されますので、何かキーを押してください。

**16** 次の手順へ進むため**[カスタム再セットアップモード]**を選択して、**[Enter]**キーを押してください。




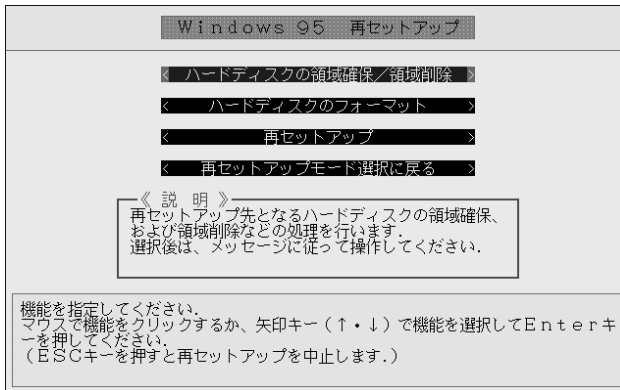
これで領域確保は終了しました。

次に「3. ドライブをフォーマットする」に進んでください。

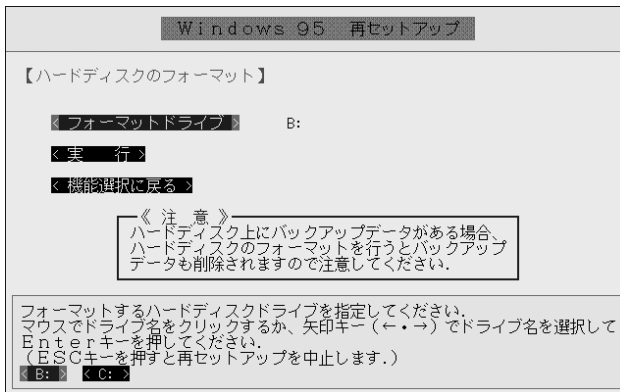
### 3. ドライブをフォーマットする.....

新しく確保しなおした領域はフォーマットの作業が必要です。


- 1 次の画面が表示されていることを確認してください。  
[ハードディスクのフォーマット]を選択して、 キーを押します。



- 2 フォーマットするドライブを選択して  キーを押します。



- ・ ハードディスクの1番目のドライブ(B:)は、ここで必ずフォーマットしてください。
- ・ フロッピーディスクドライブを増設している場合は、第1パーティションがCDドライブになることがあります。そのような場合は、ここでの説明文中の「B:」を「C:」に読みかえてください。

- 3 [実行]を選択して  キーを押します。


**4** 「注意! ドライブB: の固定ディスクのデータはすべてなくなります。フォーマットしますか(Y/N)?」というメッセージが表示されますので、**[Y]** キーを押して **[↵]** キーを押してください。

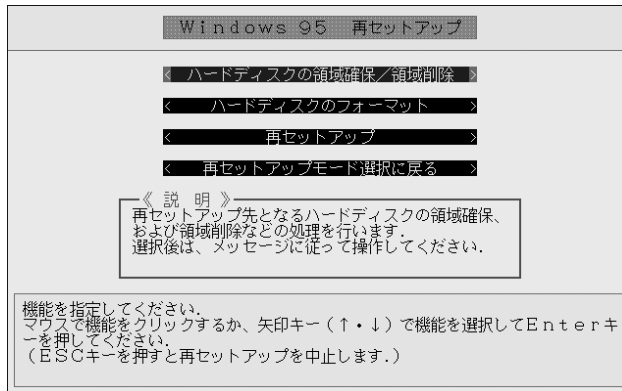
フォーマットには、5分程度かかります(フォーマットを行うドライブのサイズにより、多少異なります)

ドライブのフォーマットが終了すると、次のメッセージが表示されます。


ボリュームラベルを入力してください。  
 半角で11文字、全角で5文字以内  
 必要なければ、Enterキーを押してください。

必要であれば、「ボリュームラベル」を入力し、**[↵]** キーを押してください。  
 必要なければ、**[↵]** キーを押してください。

 「ボリュームラベル」は再セットアップ後にも設定できます。  
 「ボリュームラベル」は、[マイコンピュータ]や[エクスプローラ]でハードディスクの名前として表示されます。



新しく領域を作成しなおしたドライブがある場合は、手順1～4を繰り返してフォーマットしてください。

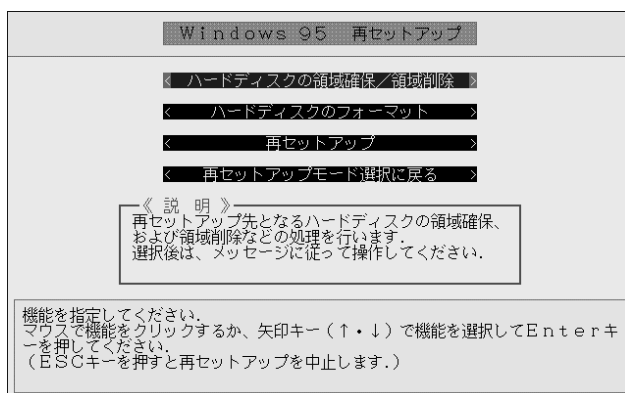
 「1. 領域を削除する」で領域の削除をしなかったドライブについては、フォーマットの作業は必要ありません。領域の削除をしなかったドライブをフォーマットすると、ハードディスクのデータがすべて失われるのでご注意ください。

次に「4. システムを再セットアップする」に進んでください。


## 4. システムを再セットアップする.....


ここからは、実際にハードディスクにシステムを再セットアップしていきます。

- 1 画面が次の画面になっていて、フロッピーディスクドライブに「システムインストールディスク」がセットされていることを確認してください。



- 2 CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM」をセットしてください。バックアップCD-ROMが複数枚ある場合は、「(1枚目)」と書かれたCD-ROMをセットします。


 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする方法やCD-ROMドライブから取り出す方法については、『ステップアップガイド』をご覧ください。

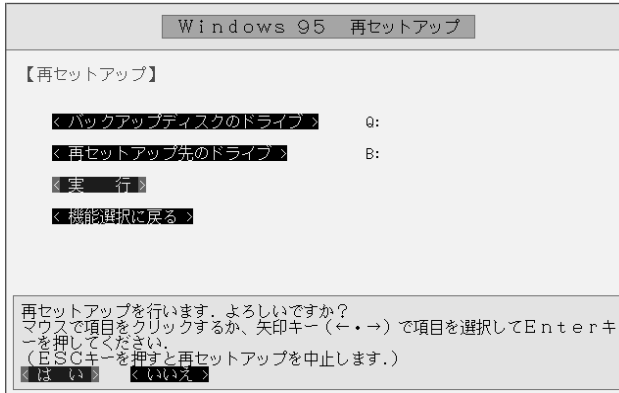
- 3 「再セットアップ」を選択して  キーを押します。

- 4 バックアップディスクのドライブに「Q:」、再セットアップ先のドライブに「B:」と表示されていることを確認してください。



- ・再セットアップ先のドライブは、必ずハードディスクの1番目のドライブ(B:)を選択してください。この状態では、フロッピーディスクドライブがAドライブになっているので、ハードディスクの第1パーティションはBドライブとなります。
- ・フロッピーディスクドライブを増設している場合は、第1パーティションがCドライブになることがあります。そのような場合は、ここでの説明文中の「B:」を「C:」に読みかえてください。

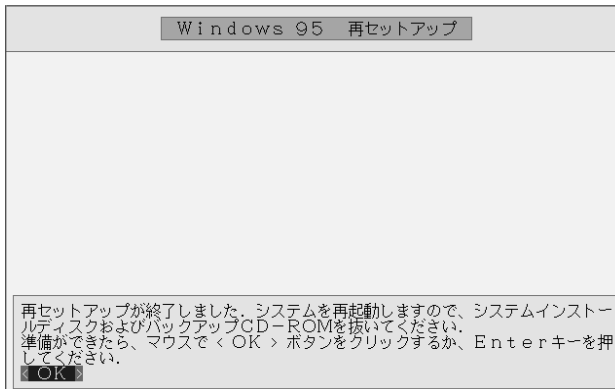
- 5** [実行] を選択して  キーを押します。  
 システムの再セットアップがはじまります。システムの再セットアップには、40～50分程度かかります(システムの再セットアップに要する時間は、お使いの機種・モデルによって異なります)。




- ・ システムの再セットアップ中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMを取り出したり、フロッピーディスクを取り出したりしないでください。また、電源スイッチを押したりしないでください。
- ・ 再セットアップ中に数回ビープ音が鳴りますが、問題ありませんので無視してください。

システムの再セットアップの途中でフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示される場合は、画面の指示にしたがってフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えてください。


システムの再セットアップが終了すると次の画面が表示されます。



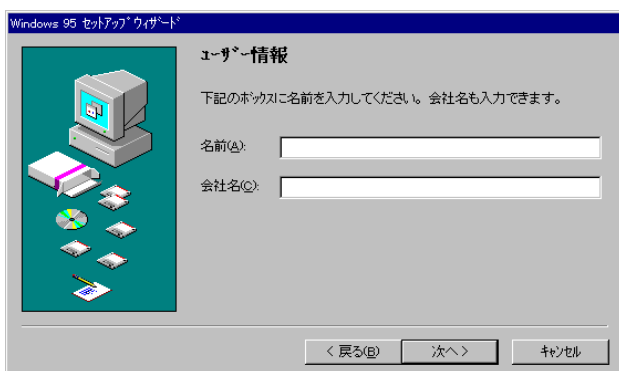
**6** フロッピーディスクドライブからシステムインストールディスクを、CD-ROMドライブからバックアップCD-ROMを取り出してください。

**7** [OK] をクリックするか、 キーを押します。



[ 固定ディスク起動メニュープログラム ] が起動した場合は、そのまま  キーを押してください。

自動的にシステムが再起動し、しばらくすると [ Windows 95 セットアップ  
ウィザード ] の画面が表示されます。



次に「5. Windows 95の設定をする」に進んでください。

## 5. Windows 95の設定をする.....

システムの再セットアップが終わったら、初めて本機の電源をONにしたときと同じように、Windows 95の設定をする必要があります。

**1** [ユーザー情報]の画面で、キーボードを使って名前と会社名を入力します。



- ・ ユーザー情報は、Windows 95のライセンスを受けている人の情報を入力してください。
- ・ 会社名は入力しなくてもかまいません。ただし、セットアップ完了後に変更することはできません。
- ・ 名前を入力しないと、次の手順に進むことはできません。
- ・ ここで入力した名前は、セットアップ完了後に変更することはできませんので、ご注意ください。



文字の入力は、ローマ字でも、漢字やカタカナでもかまいません。

ここでは、漢字で「田中」と入力する場合を説明します。

「たなか」と入力します。

キーボードの **T A N A K A** を押します。

キーボードの  (スペース) キーを押します。

入力した文字が漢字に変換されて **田中** のように表示されます。

変換したい漢字が表示されない場合は、キーボードの  (スペース) キーを押します。

キーボードの  キーを押します。

変換した漢字が確定されます。

- ・ 難しい読み方の名前などを入力する場合は、まず ~ の手順で「た」を変換し、次にもう一度 ~ の手順で「なか」を入力するというように、漢字1文字ごとに区切って入力してください。

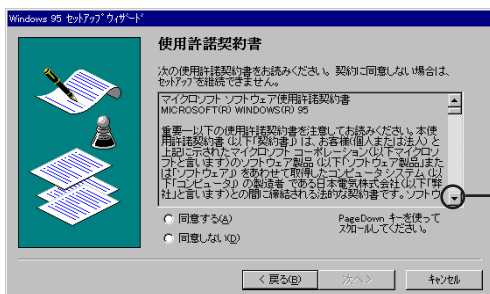
- ・ ひらがなを入力して、キーボードの  (スペース) キーを押さずに  キーを押すと、ひらがなのまま確定することができます。
- ・ 間違えて入力してしまった場合は、 キーを押すことで1文字ずつ削除することができます。

文字入力に関する詳しい説明は『かんたんスタートガイド』を、キーボードに関する詳しい説明は『ステップアップガイド』の「キーボード」をご覧ください。

**2** 入力が終わったら「次へ」ボタンをクリックします。

**3** 「使用許諾契約書」を確認します。確認が終わったら「同意する」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。

「使用許諾契約書」は大切な情報ですので、画面をスクロールして、必ずお読みください。



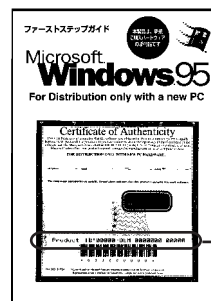
スクロールボタンをクリックまたは、キーボードの  キーを押すと、画面がスクロールする



「同意しない」をクリックするとセットアップが中止されます。

**4** 次の画面が表示されます。キーボードを使ってProduct IDを半角文字で入力します。

Product IDは添付の『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』の表紙に記載されています。



Product IDはここに記載されています。

(表紙のデザインは、実際のものとは異なる場合があります)





0(ゼロ)とO(オー)、1(イチ)とI(アイ)など、似ている文字を間違えないように注意してください。



『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』は紛失しないように気を付けてください。  
表紙に記載されている「Product ID」がないと、再セットアップできません。

## 5 入力が終わったら「次へ」ボタンをクリックします。



数字を入れ間違えたときは、「次へ」ボタンをクリックすると、「入力された Certificate of Authenticityの番号は無効です」というメッセージが表示されます。「再入力」をクリックすると、再度Product IDを入れる画面に戻ります。まず、「Microsoft Windows95ファーストステップガイド」の表紙を見て、画面に表示されているProduct IDの番号が正しいか確認してください。間違っていたら、番号を間違えた欄の右端に矢印の先端を合わせ、クリックします。そのあと **[BS]** キーを押して、後ろから数字を消していき、正しい番号を打ち直してください。


## 6 次の画面が表示されます。「完了」ボタンをクリックします。



ここでの完了は、本機のセットアップすべての完了ではありません。絶対に電源をOFFにしないでください。

## 7 自動的にシステムが再起動します。



[ 固定ディスク起動メニュープログラム ] が起動した場合は、そのまま  キーを押してください。

しばらくすると、次のような画面が表示されます。



ここでWindows 95のデスクトップ画面が表示されますが、本機のセットアップはまだ完了していません。ここでは、アプリケーションソフトを起動したりせずに、必ず手順8以降の操作を行ってセットアップを完了させてください。セットアップを完了しないと誤動作の原因となります。

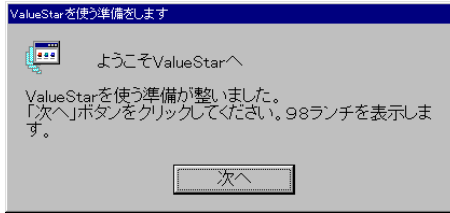
## 8

[ スタート ] ボタンをクリックするとスタートメニューが表示されるので、[ ValueStar を使う準備をします ] にマウスポインタを合わせてクリックします。



ここをクリック

**9** 次の画面が表示されるので「次へ」ボタンをクリックします。



**10** 次のような「98ランチ」の画面が表示されます。



これで、Windows 95の設定は終了です。

model C3をお使いの場合は、以上でカスタム再セットアップの作業はすべて終了しました。

model D3をお使いの場合は、次に「6. Word・Excel・Outlookを再セットアップする」に進んでください。

## 6. Word・Excel・Outlookを再セットアップする.....

model D3に関する内容です。  
model C3では、以下の作業は行いません。

Word・Excel・Outlookを利用できるようにするには以下の設定が必要です。

- ・ Word 97を再セットアップする
- ・ Excel 97を再セットアップする
- ・ Outlook 97を再セットアップする
- ・ グループを再構成する

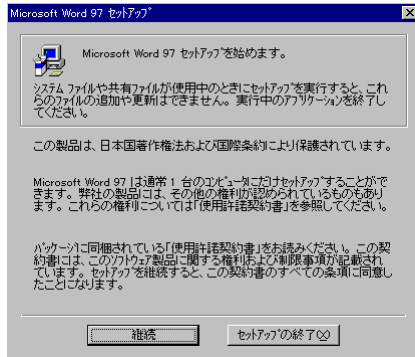
### Word 97を再セットアップする

- 1 「Microsoft® Excel 97 & Word 97 & Outlook™ 97 for Windows®」のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。  
自動的に次の画面が表示されます。

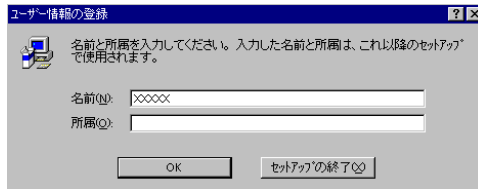



- 2 [Microsoft Word 97のセットアップ] ボタンをクリックします。  
Word 97のセットアッププログラムが起動します。

**3** [ 継続 ] ボタンをクリックします。



**4** [ ユーザー情報の登録 ] の画面が表示されたら [ OK ] ボタンをクリックします。



 「名前」と「所属」には、Windows 95のユーザー情報が表示されます。変更する場合は入力しなおしてください。

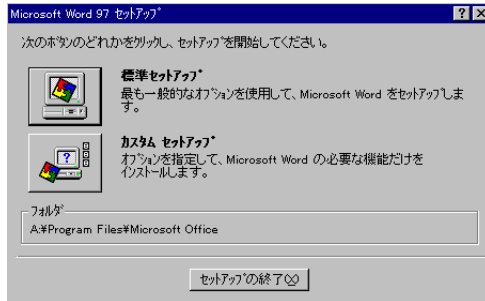
**5** [ ユーザー情報の確認 ] の画面が表示されたら、[ OK ] ボタンをクリックします。

**6** [ プロダクトID ] の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックしてください。次の画面が表示されます。

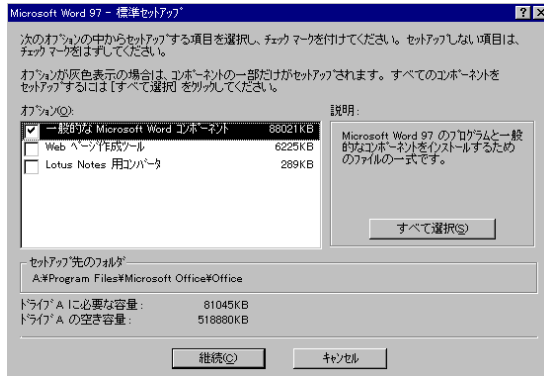


**7** [ OK ] ボタンをクリックします。

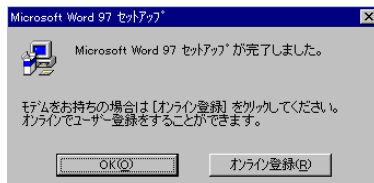
## 8 [標準セットアップ] ボタンをクリックします。



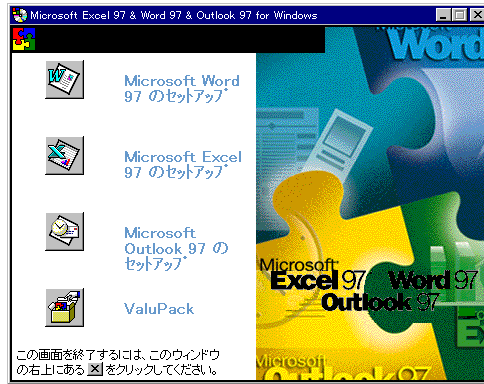
## 9 [ 継続 ] ボタンをクリックします。 Word 97のセットアップが始まります。



## 10 セットアップが終了すると、次の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。



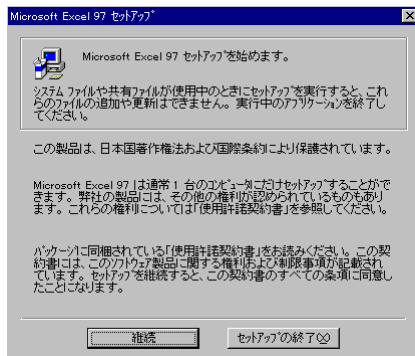
次の画面が表示されます。



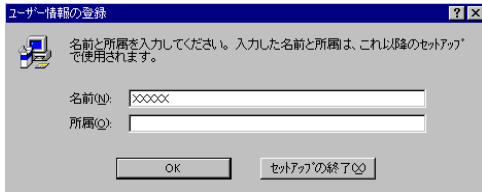
これで、Word 97の再セットアップは完了です。  
次にExcel 97の再セットアップを行います。

## Excel 97を再セットアップする

- 1 [Microsoft Excel 97のセットアップ] ボタンをクリックします。  
Excel 97のセットアッププログラムが起動します。
- 2 [ 継続 ] ボタンをクリックします。



### 3 [ユーザー情報の登録]の画面が表示されたら[ OK ]ボタンをクリックします。



- ・ 「名前」と「所属」にはWindows 95のユーザ情報が表示されます。変更する場合は、入力しなおしてください。
- ・ 「 Word 97を再セットアップする」の手順4で「名前」や「所属」を変更している場合は、その「名前」や「所属」が表示されます。

### 4 [ユーザー情報の確認]の画面が表示されたら[ OK ]ボタンをクリックします。

### 5 [プロダクトID]の画面が表示されるので[ OK ]ボタンをクリックします。

### 6 [ OK ]ボタンをクリックします。

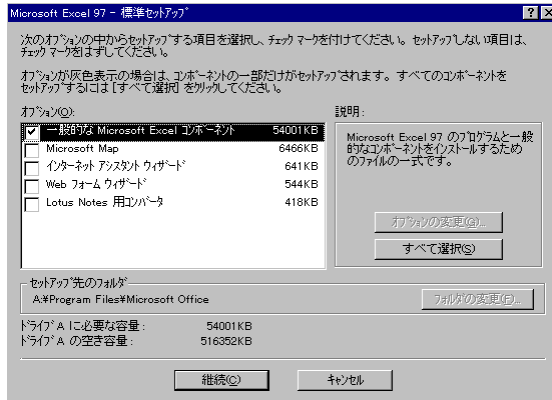


### 7 [標準セットアップ]ボタンをクリックします。

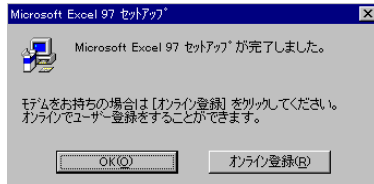




- 8 [ 継続 ] ボタンをクリックします。  
Excel 97のセットアップが始まります。



- 9 セットアップが終了すると、次の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。



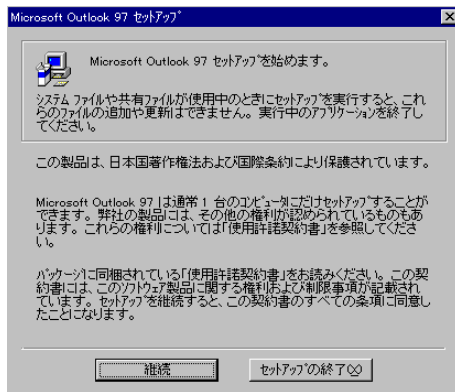
次の画面が表示されます。



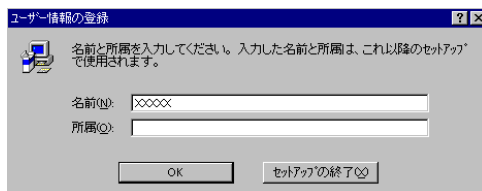
これで、Excel 97の再セットアップは完了です。  
次にOutlook 97の再セットアップを行います。

## Outlook 97を再セットアップする

- 1 [Microsoft Outlook 97のセットアップ] ボタンをクリックします。  
Outlook 97のセットアッププログラムが起動します。
- 2 [ 継続 ] ボタンをクリックします。



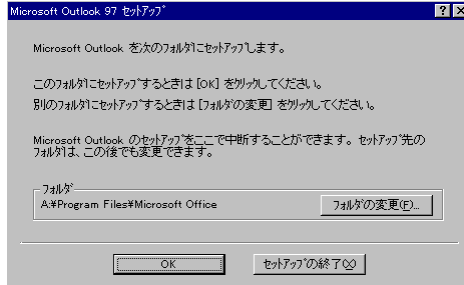
- 3 [ユーザー情報の登録] の画面が表示されたら [ OK ] ボタンをクリックします。



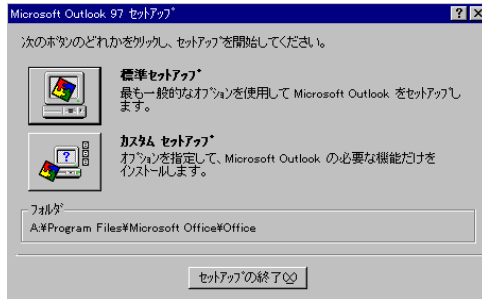
- ・「名前」と「所属」にはWindows 95のユーザ情報が表示されます。  
変更する場合は入力しなしてください。
- ・「 Word 97を再セットアップする 」の手順4または「 Excel 97を再セットアップする 」の手順3で「名前」や「所属」を変更している場合は、その「名前」や「所属」が表示されます。

- 4 続いて[ユーザー情報の確認] の画面が表示されますので、[ OK ] ボタンをクリックします。
- 5 [ プロダクトID ] の画面が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。

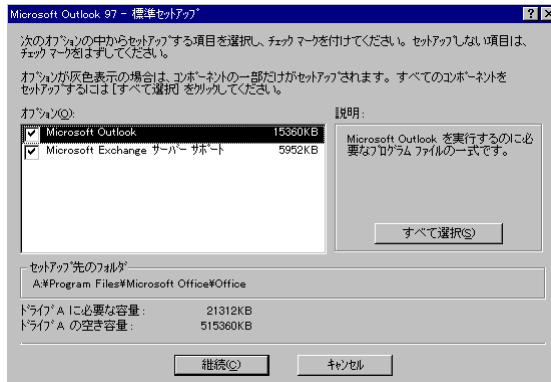
6 [ OK ] ボタンをクリックします。



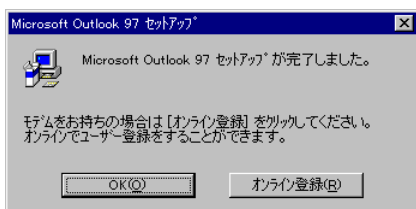
7 [ 標準セットアップ ] ボタンをクリックします。



8 [ 継続 ] ボタンをクリックします。  
Outlook 97のセットアップが始まります。



- 9 セットアップが終了すると、次の画面が表示されるので、OK ボタンをクリックします。



- 10 次の画面が表示されるので、画面右上の X ボタンをクリックして画面を閉じます。



- 11 CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出します。

これでOutlook 97の再セットアップは完了です。

次に、「グループを再構成する」の作業を行ってください。



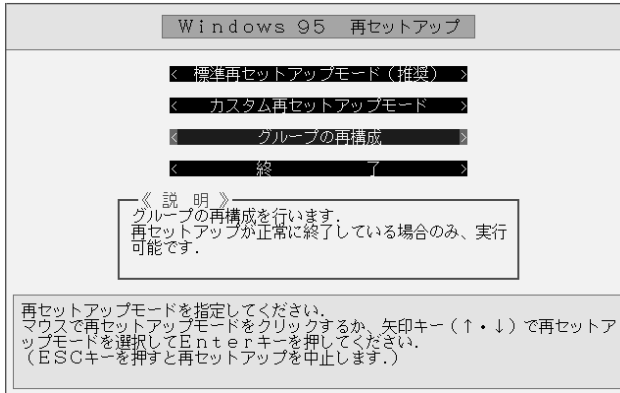
本機をご利用中に、Word、Excel、Outlookを削除される場合は、あとから再セットアップしたアプリケーションから削除を始めてください。

例 Word、Excel、Outlookの順番で再セットアップをした場合は、Outlook、Excel、Wordの順番でアプリケーションの削除をしてください。

## グループを再構成する

98ランチのメニューにWord・Excel・Out lookのアイコンを登録します。

- 1 Windows 95を終了します。  
Windows 95の「スタート」メニューで「Windowsの終了」をクリックします。  
[Windowsの終了]ダイアログボックスで「コンピュータの電源を切れる状態にする」を選択して、[はい]ボタンをクリックしてください。電源がOFFになります。
- 2 本体の電源をONにします。
- 3 電源表示用LEDが点灯したら、すぐに「(起動用)」と書かれたシステムインストールディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。  
お使いの機種により「再セットアップについて」の画面が表示されますので、何かキーを押してください。
- 4 [グループの再構成]を選択して  キーを押します。



- 5 「グループの再構成を行います よろしいですか?」と表示されるので、[はい]を選択して  キーを押します。  
グループの再構成が実行されます。終了すると「グループの再構成が終了しました。」というメッセージ画面が表示されます。
- 6 フロッピーディスクドライブからシステムインストールディスクを取り出し、[OK]をクリックするか、キーを押してください。  
自動的にシステムが再起動し、しばらくすると「Windows 95へようこそ」の画面が表示されます。[閉じる]ボタンをクリックしてください。



[固定ディスク起動メニュープログラム]が起動した場合は、そのまま  キーを押してください。

以上でWord・Excel・Out lookの再セットアップの作業は終了しました。  
これでカスタム再セットアップの作業はすべて終了しました。





## Part 2

# 他のOSを利用する

Windows 3.1、MS-DOS 6.2やOS/2など、別売のOSを本機で利用するために必要な知識や注意事項について説明しています。

MS-DOS 6.2を利用する

Windows 3.1を利用する

Windows NTを利用する

OS/2を利用する

NetWareを利用する

その他のソフトウェアを利用する

Windows 95以外のOSをご利用になる際の注意

Windows 95以外のOSをご利用になる場合は、Windows 95がインストールされている領域とは別の領域に、インストールやアップグレードなどを行ってください。インストールやアップグレードを行う際にはMS-DOSに関する知識が必要となります。MS-DOSに添付されているマニュアルをよくお読みの上、ご利用ください。

# MS-DOS 6.2を利用する

本機で別売のMS-DOS 6.2を利用する場合に必要なアップグレードの手順について説明します。

また、アップグレードしたことにより、利用できる機能についても説明します。

## MS-DOS 6.2の利用 .....

本機では、以下のMS-DOSが利用できます。

- ・ MS-DOS 6.2基本機能セット (以降、MS-DOS 6.2)

次に、別売のMS-DOS 6.2を利用する場合に必要なアップグレードの手順について説明します。



- ・ Windows 95がインストールされている領域またはMS-DOS 6.2をインストールする領域が圧縮されている場合は、その領域を展開してからインストールやアップグレードを行ってください。
- ・ Windows 95がインストールされている領域を解放して、MS-DOS 6.2をインストールする場合は、領域を解放する前に作業が必要となります。後述の「参考 Windows 95の領域を解放してMS-DOS 6.2をインストールする」をご覧ください。また、Windows 95がインストールされている領域がMS-DOS 6.2から認識できない場合も、同様の手順に従ってアップグレードしてください。なお、MS-DOS 6.2以外のソフトウェアをアップグレードする場合は、Windows 95の領域を解放しないでください。
- ・ MS-DOS 6.2では、FAXモデムボードおよびISDNボードは使用できません。

## MS-DOS 6.2のアップグレード

本機で別売のMS-DOS 6.2を利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

- (1) システムディスクの複製
- (2) 複製したシステムディスクのアップグレード
- (3) MS-DOS 6.2のインストール
- (4) インストールしたMS-DOS 6.2のアップグレード



## (1) システムディスクの複製

以下の手順では、次のものがが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- ・ MS-DOS 6.2 システムディスク(別売)
- ・ 2HDフロッピーディスク : 1枚  
2HDフロッピーディスクには、あらかじめ「アップグレード済みシステムディスク #1」と書いたラベルを貼っておいてください。



Windows 95の領域を解放して、MS-DOS 6.2をインストールする場合は、別途フロッピーディスクが必要となります。その際は指示にしたがって用意してください。詳しくは後述の「参考 Windows 95の領域を解放してMS-DOS 6.2をインストールする」をご覧ください。

はじめに「MS-DOS 6.2システムディスク#1」に対してアップグレードを行います。アップグレードによりシステムディスクの内容を書き換えますので、必ずシステムディスクの複製を作成し、複製に対してアップグレードを行ってください。オリジナルのシステムディスクは大切に保存しておいてください。

- 1** 本機の電源をONにして、「Windows 95を起動しています...」のメッセージが表示されたら、キーボードの[F8]キーを押してWindows 95起動メニューを表示させます。
- 2** Windows 95起動メニューから「コマンドプロンプトのみ」を選択します。システムディスクのアップグレードが終了するまでは、起動したコマンドプロンプトのまま続けて作業してください。
- 3** FORMATコマンドを使って、あらかじめ用意しておいた「アップグレード済みシステムディスク#1」を初期化します。  
「アップグレード済みシステムディスク#1」をフロッピーディスクドライブにセット後、コマンドプロンプトから次のように入力し、1.25Mバイトでフォーマットします。  
<ドライブ名>には、「アップグレード済みシステムディスク#1」をセットしたフロッピーディスクドライブを指定します。

```
FORMAT <ドライブ名> : /U /M [Q]
```

- 4** DISKCOPYコマンドを使って「システムディスク#1」の複製を作成します。複製はあらかじめ用意した「アップグレード済みシステムディスク#1」に作成します。



DISKCOPYコマンドの使用方法はコマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

DISKCOPY /?

## (2)複製したシステムディスクのアップグレード

引き続き、複製した「システムディスク#1」に対してアップグレードを行います。

- 1** フロッピーディスクドライブに「アップグレード済みシステムディスク#1」をセットします。
- 2** コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードを実行します。  
<ドライブ名>には「アップグレード済みシステムディスク#1」をセットしているドライブ名を指定します。

CD ¥DOS62

UPDOS62 <ドライブ名> :

## (3)MS-DOS 6.2のインストール

引き続き、MS-DOS 6.2のインストールを行います。

「アップグレード済みシステムディスク#1」を使って、ハードディスクまたはフロッピーディスクへのインストールを行います。

なお、MS-DOS 6.2をハードディスクにインストールする場合は、すでに確保済みの領域を解放してから、インストールを行ってください。MS-DOS 6.2のインストールを行うために必ず20MB以上の領域を確保し、MS-DOS 6.2のすべての機能をインストールしてください。

MS-DOS 6.2のインストール方法については、MS-DOS 6.2のマニュアルをご覧ください。



MS-DOS 6.2に添付されているWindowsモジュールは、Windows 95およびWindows NTではご利用になれません。

なお、Windows 3.1でMS-DOS 6.2のWindowsモジュールをご利用になる場合は、MS-DOS 6.2とWindows 3.1のアップグレードをすべて終了してから、INSTWINコマンドを使ってWindowsモジュールをインストールしてください。INSTWINコマンドについては、MS-DOS 6.2に添付の「インストールガイド」をご覧ください。



「アップグレード済みシステムディスク#1」はこのディスクを作成した環境でのみ使用できます。CD-ROMドライブなどのハードウェア構成を変更すると、正常にMS-DOS 6.2をインストールできない場合がありますので、最初からアップグレードをやりなおしてください。

#### (4) インストールしたMS-DOS 6.2のアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOS 6.2を、再度アップグレードします。

**1** MS-DOS 6.2をインストールしたハードディスク、またはフロッピーディスクから起動します。  
DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの[F3]キーを押して終了してください。

**2** コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをWindows 95 がインストールされているハードディスクのドライブに変更します。  
ドライブ名 にはWindows 95のドライブを指定してください。

<ドライブ名> :

**3** コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントディレクトリを変更した後、アップグレードを実行します。  
ドライブ名 にはMS-DOS 6.2をインストールしたドライブを指定します。  
ハードディスクにインストールした場合はディレクトリ名も指定してください。

・フロッピーディスクにインストールした場合

CD ¥DOS62

UPDOS62 <ドライブ名> :

・ハードディスクにインストールした場合

CD ¥DOS62

UPDOS62 <ドライブ名> : ¥ <ディレクトリ名>

**4** アップグレードが終了したら、再起動してアップグレードしたMS-DOS 6.2をお使いください。

## 参考 Windows 95の領域を解放してMS-DOS 6.2をインストールする

ここではWindows 95がインストールされている領域を解放して別売のMS-DOS 6.2をインストールする場合の手順について説明します。

別売のMS-DOS 6.2をWindows 95がインストールされている領域を解放してインストールするには、必ず次の手順で行ってください。

### 1. システムディスクのアップグレード

アップグレードに必要なファイルのバックアップを行います。

以下の手順では、次のものがが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- ・MS-DOSでフォーマット済みの2HDフロッピーディスク :2枚

次に手順を説明します。

**1** 「MS-DOS 6.2のアップグレード」の「(1)システムディスクの複製」と「(2)複製したシステムディスクのアップグレード」を行います。

**2** フロッピーディスクドライブに用意したフロッピーディスクをセットし、コマンドプロンプトから次のように入力します。

ドライブ名 にはフロッピーディスクをセットしたドライブを指定します。画面の指示にしたがってフロッピーディスクを入れ替えてください。

CD ¥DOS62

FBACK62 <ドライブ名> :

メッセージに従って、作成したフロッピーディスクにラベルを貼ります。

**3** 「MS-DOS 6.2のアップグレード」の「(3)MS-DOS 6.2のインストール」を行います。

## 2. インストールしたMS-DOS 6.2のアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOS 6.2を、再度アップグレードします。

- 1** MS-DOS 6.2をインストールしたハードディスクから起動します。  
DOSシェルが表示された場合は、キーボードの[F3]キーを押して終了させます。
- 2** フロッピーディスクドライブに前述の「1. システムディスクのアップグレード」の手順2で作成した「バックアップディスク#1」をセットします。
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブを「バックアップディスク#1」をセットしたドライブに変更して、アップグレードに必要なファイルをハードディスクにリストアップします。  
ドライブ名1 にはフロッピーディスクのドライブを、ドライブ名2 にはMS-DOS 6.2をインストールしたハードディスクのドライブ名を入力します。

<ドライブ名1> :

FBACK62 <ドライブ名2> :

<ドライブ名2> :

- 4** 以降は、「MS-DOS 6.2のアップグレード」の「(4) インストールしたMS-DOS 6.2のアップグレード」の手順3以降を行います。

## 複数台CD-ROMドライブの利用

ここでは別売のMS-DOS 6.2上でCD-ROMドライブを複数台同時に使用する場合に必要となる設定方法や注意事項を説明します。



・ 次のCD-ROMドライブを接続している場合は、複数台接続の設定はできません。

- ・ PC-ODX
- ・ PC-ODXD
- ・ PC-ODX66
- ・ NEC製以外のCD-ROMドライブ
- ・ PC-CD800
- ・ PC-CD400D/4
- ・ PC-CD60/7

・ MS-DOS 6.2上で接続できるCD-ROMドライブはSCSI接続が4台まで、本体内蔵の専用インターフェイス接続が1台までで、合計最大5台までです。

### CD-ROMドライブの複数台接続の設定

CD-ROMドライブの複数台接続の設定は、INSTCDコマンドを使用して行います。INSTCDコマンドは、起動ドライブのCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルにCD-ROMの複数台接続の設定を自動的に行います。INSTCDコマンドを使用するには、次の条件が全て満たされている必要があります。

- ・ 1台目のCD-ROMドライブが使用可能な設定になっている。
- ・ ハードディスクにインストールされているMS-DOS 6.2から起動している。
- ・ MS-DOS 6.2がインストールされているディレクトリが、環境変数DOSDIRに正しく設定されている。
- ・ AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」で指定したドライブ番号が、増設するCD-ROMドライブのドライブ番号を連続して確保できる設定になっている。

INSTCDコマンドを実行するには、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
INSTCD 
```



INSTCDコマンドはWindowsのMS-DOSプロンプトおよびDOSシェルからは実行できません。



ネットワークドライブが存在する場合や、SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが存在する場合、INSTCDコマンド実行後に以下の現象が起こることがあります。

- ・ ネットワークドライブが使用できなくなる
- ・ SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが使用できなくなる
- ・ CD-ROMドライブが使用できなくなる

このような場合は、次の手順でCD-ROMドライブの接続設定を再度行くと、従来の環境どおりにご利用になれます。

INSTCDコマンドでCD-ROMドライブの接続設定を行う。

SEDITなどのエディタを使用して、ネットワークドライブや仮想ドライブのドライブ指定やAUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ / L: のドライブ指定を他のドライブの割り当てと重複しないよう変更する。

## CD-ROMドライブの複数台接続の解除

CD-ROMドライブの複数台接続の設定を解除するには、次の手順で行ってください。

- 1 SEDITなどのエディタを使用して、CONFIG.SYSファイルおよびAUTOEXEC.BATファイルのCD-ROMの設定行の先頭に、すべて「REM」を追記して、CD-ROMドライブの接続設定を無効にします。

例 <CONFIG.SYSファイル>

```
REM DEVICE = A: ¥DOS¥NECCD.SYS /D:CD_101
REM DEVICE = A: ¥DOS¥NECCDB.SYS /D:CD_B
```

<AUTOEXEC.BATファイル>

```
REM A: ¥DOS¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q /D:CD_B
```

- 2 本機を再起動します。
- 3 CUSTOMコマンドで、再度CD-ROMの設定を行います。

- 4** SEDITなどのエディタを使用して、AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「L:」にドライブ名を指定します。

例 AUTOEXEC.BATファイル  
CD-ROMドライブをQドライブに設定する場合

```
A: ¥DOS¥MSCDEX /D:CD_101 /L:QM /D:CD_B
```

- 5** 本機を再起動すると、CD-ROMドライブの複数台接続が解除されます。

### 複数台接続時のCD-ROMアプリケーション使用上のご注意

- ・ CD-ROMアプリケーションを使用する場合、複数台のCD-ROMドライブのうち先頭以外のドライブにCD-ROMをセットすると、正常に動作しないものがあります。  
この場合には、CD-ROMアプリケーションを先頭のCD-ROMドライブにセットしなおしてお使いください。
- ・ CD-ROMアプリケーションによっては、CD-ROMドライブが複数割り当てられた状態では動作しないものがあります。  
この場合には、接続しているCD-ROMドライブを1台にするなど、CD-ROMドライブが1台しか割り当てられていない状態にしてください。

## MS-DOS 6.2の強化機能

MS-DOS 6.2をアップグレードしたことにより、本機で使用できる強化機能は次のとおりです。

### POWERコマンド

POWERコマンドは、MS-DOSシステムやアプリケーションソフトの動作を監視して、本機をパワーセーブ(消費電力制御)状態にします。

本機はシステムセットアップメニューの「省電力の設定」メニューでパワーセーブモードの設定が可能です。POWERコマンドを使用することで、MS-DOSシステムレベルでのパワーセーブが可能になります。



本体の「省電力の設定」メニューに「CPU自動停止」の設定がある場合は、「設定しない」にてご使用ください。

なお、システムセットアップメニューについては別冊の『ステップアップガイド』をご覧ください。

---



## ・POWERコマンドの組み込み

POWERコマンドを使用するには、CONFIG.SYSファイルに次の一行を追加して本機を再起動します。

```
DEVICE=A : ¥DOS¥POWER.EXE
```

POWERコマンドは、UMBメモリに十分な空き容量が存在する場合、組み込み時に自動的にUMBメモリを利用します。

また、POWERコマンドには次のようなスイッチがあります。

```
DEVICE=A : ¥DOS¥POWER.EXE [ADV [ : MAX|REG|MIN]|STD|OFF] [/LOW]
```

```
ADV[ : MAX | REG | MIN]
```

アプリケーションソフトやハードウェアのアイドル(何もしていない時間)を検出して、本機をパワーセーブ動作状態にします。MIN、REG、MAXの順にパワーセーブされる度合いが高くなりますが、本機の動作速度が遅くなる可能性も大きくなります。動作速度に問題が発生する場合は、MINを指定してください。これらの指定を省略した場合は、REG指定の状態で作動します。

STD POWERコマンドの機能を無効にします。また、本機に省電力機能がある場合は設定された値を有効にします。

OFF POWERコマンドの機能を無効にします。また、本機に省電力機能がある場合は設定された値を無効にします。

/LOW UMBメモリに十分な空き容量がある場合でも、UMBメモリを使用しません。



POWERコマンドは、ADDDRVコマンドでは組み込まないでください。

## ・POWERコマンドの動作の変更

POWERコマンド組み込み後に動作の設定を変更する場合は、コマンドラインから次のように指定します。スイッチの内容は組み込み時と同様です。

```
POWER [ADV [ : MAX|REG|MIN] STD|OFF] 
```



POWERコマンドを組み込んでいない場合、コマンドラインからの設定変更はできません。

## MAXLINK-LITE

ここでは、MS-DOS 6.2に添付されているマニュアルに記述されている「MAXLINK LITE」の補足事項を説明します。

MAXLINK-LITEは最大115.2Kbpsでの高速通信に対応しています。

### • MAXLINK.DRVのスイッチ

MAXLINK.DRVのスイッチは次のとおりです。

```
DEVICE=A:¥DOS¥MAXLINK.DRV [ /1|/2|/3 ][ /W ][ /E ]
```

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /W 相手機のMAXLINKコマンドが実行されるまで待機します。
- /E 相手機のドライブをすべて交換可能なドライブとして処理します。

### • MAXLINK.EXEのスイッチ

MAXLINK.EXEのスイッチは次のとおりです。

```
MAXLINK [ /1|/2|/3 ][ /S0|/S5|/S3|/S1|/S9|/S4 ]
```

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /S0 転送速度を115200bpsに設定します。
- /S5 転送速度を57600bpsに設定します。
- /S3 転送速度を38400bpsに設定します。
- /S1 転送速度を19200bpsに設定します。
- /S9 転送速度を9600bpsに設定します(デフォルトの値)
- /S4 転送速度を4800bpsに設定します。

## 高分解能クロックデバイス

HRTIMER.SYSは、MS-DOSで1/100秒単位での時刻の取得 / 設定を行う場合に使用する高分解能クロックデバイスです。

### ・ HRTIMER.SYSの組み込み

高分解能クロックデバイスを使用するにはCONFIG.SYSファイルに次のような一行を追加して本機を再起動します。

```
DEVICE=A:¥DOS¥HRTIMER.SYS
```



HRTIMER.SYSは、ADDRRVコマンドを使用して組み込まないでください。

---

また、オンラインヘルプの注意事項も必ずお読みください。

## 固定ディスク起動メニュープログラムについて

本機の固定ディスク起動メニューで自動起動の設定 / 解除を行うには、キーボードの **F1** キーを使用します。

固定ディスク起動メニュープログラムについて、詳しくは付録の「固定ディスク起動メニューの利用」または、MS-DOS 6.2のマニュアルをご覧ください。

# Windows 3.1を利用する

本機でWindows 3.1を利用する場合やアップグレードの手順について説明します。  
また、アップグレードしたことにより、利用できる機能についても説明します。

## Windows 3.1の利用.....

本機でMicrosoft Windows 3.1(以降、Windows 3.1)を利用するには、次の手順で、アップグレードや表示解像度、サウンド機能の設定を行ってください。



Windows 3.1をインストールする前に、アップグレード済みのMS-DOS 6.2をインストールしてください。アップグレードの手順は「MS-DOS 6.2の利用」をご覧ください。

なお、Windows 95の領域は解放しないでください。

---

## Windows 3.1のアップグレード

本機で別売のWindows 3.1を利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

**1** Windows 3.1をハードディスクドライブにインストールします。  
Windows 3.1のインストール方法は、Windows 3.1の添付マニュアルの『お使いになる前に』をご覧ください。

**2** インストール途中でセットアップ方法を選択する画面が表示されます。ここで「カスタムセットアップ」を選択します。



セットアップの際に、「入門セットアップ」や「標準セットアップ」を選択すると、自動的に解像度が選択されますので、これらのセットアップ方法は選択しないでください。

---

**3** システムのハードウェア、ソフトウェア構成を選択する画面が表示されたら、ディスプレイの項目で「640×400 16色 12ドット」または「640×400 16色 16ドット」を選択します。



- ・ [スワップファイルの設定] ダイアログボックスで [BIOSを経由しないでスワップファイルを利用] に × 印がついている ( 選択されている ) 場合、マウスでこのチェックボックスをクリックするなどして、× 印を消してください。また、Windows 3.1 をインストール、アップグレードした後も、このチェックボックスは選択しないでください。  
選択した状態で Windows 3.1 をインストールする、または Windows 3.1 を使用すると、正常に動作しない場合があります。
- ・ Windows NT がインストールされている領域がある場合は [アプリケーションの登録] ダイアログボックスの [検索するパスかドライブ] で、Windows NT のインストールされている領域を選択しないでください。

- 4 Windows 3.1 のインストールが終了したら、一度電源を OFF にします。
- 5 内蔵ハードディスクから Windows 95 を起動します。  
[スタート] メニューの [Windows の終了] をクリックし、「MS-DOS モードでコンピュータを再起動する」を選択して MS-DOS モードを起動します。
- 6 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを Windows 95 がインストールされているドライブの「WIN31」ディレクトリに変更します。

CD ¥WIN31



バックアップ CD-ROM の WIN31 ディレクトリは指定しないでください。

- 7 コマンドプロンプトから次のように入力して、Windows 3.1 をアップグレードします。  
<ドライブ名>、<ディレクトリ名> には Windows 3.1 をインストールしたドライブとディレクトリを入力します。

UPWIN <ドライブ名> : ¥ <ディレクトリ名>

- 8 アップグレードを終了後、本機を再起動してください。

## 表示解像度の設定

本機はウィンドウアクセラレータを内蔵しています。内蔵のウィンドウアクセラレータに対応したディスプレイドライバを使用することで、高解像度、多色表示を利用できます。

### 解像度の種類

本機内蔵のウィンドウアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

機種（モデル）	解像度	表示色
PC-9821V233/M7	640×480	1677万色中256色
PC-9821V200/S7	640×480	6万5千色
PC-9821V200/S5	640×480	1677万色
	800×600	1677万色中256色
	800×600	6万5千色
	800×600	1677万色
	1024×768	1677万色中256色
	1024×768	6万5千色
	1280×1024	1677万色中256色

### ディスプレイドライバの組み込み

MS-DOSのコマンドプロンプトから、WindowsディレクトリのSETUPコマンドを起動して、ディスプレイドライバを組み込みます。

ディスプレイドライバを組み込む方法の詳細は、『Microsoft Windows 3.1 機能ガイド』の「第14章 セットアップによるWindowsの利用環境の変更」をご覧ください。

### マイクロソフト社製Microsoft Windows 3.1で内蔵ウィンドウアクセラレータを使用する場合の注意

マイクロソフト社製Windows 3.1のSETUPコマンド実行時のディスプレイの項目で、内蔵アクセラレータボード対応のドライバを選択した場合、フロッピーディスクを差し替える旨のメッセージが表示されます。このとき、指定のフロッピーディスクをセットしてもセットアップを継続できない場合は、次のフロッピーディスクと差し替えてください。

画面のメッセージ	セットするフロッピーディスク (マイクロソフト社製の場合)
Microsoft Windows 3.1 DISK #1	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #3	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #8	Windowsディスク #4
Microsoft Windows 3.1 DISK #11	Windowsディスク #9

## サウンド機能の設定

ここでは、Windows 3.1でのサウンド機能の利用方法について説明します。

### サウンドドライバの組み込み

次の手順でサウンドドライバを組み込んでください。



次のドライバが組み込まれている場合は、あらかじめ削除してください。

- ・ NECサウンドボード( PC-9801-26K )MIDI
- ・ NECサウンドボード( PC-9801-73 )Wave & MIDI
- ・ NECサウンドボード( PC-9801-86 )Wave & MIDI

削除の手順は以下のとおりです。

[コントロールパネル]の[ドライバ]をダブルクリックします。  
表示されたダイアログボックスで上記のドライバを選択し、[削除]ボタンをクリックし削除します(Windowsの再起動は行わないでください)。  
[アクセサリ]グループの[メモ帳]を起動してSYSTEM.INIファイルの次の行を削除します。

```
device = vsbd.386
```

Windowsを終了します。

- 1** Windows 3.1を起動します。
- 2** [メイン]グループの[コントロールパネル]アイコンをダブルクリックして、さらに[ドライバ]アイコンをダブルクリックします。
- 3** [ドライバの設定]ダイアログボックスの[追加]ボタンをクリックします。
- 4** [一覧にない、または更新されたドライバ]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 5** [ドライバの組み込み]ダイアログボックスが表示されたら、次のように指定します。  
<Windows 95のドライブ名> : ¥WIN31

- 6** [ OK ] ボタンをクリックします。
- 7** サウンドドライバの種類を選択します。  
「YMF701互換 Sound WAVE&MIDI」を選択し、[ OK ] ボタンをクリックします。  
[ 現在のものを使う ] をクリックします。
- 8** [ YMF701互換 サウンドドライバ ダイアログボックスの ] OK ボタンをクリックします。
- 9** 再起動せずに、同様の手順で [ NEC Mixer Driver ] を組み込みます。
- 10** Windows 3.1を再起動すると、サウンド機能が使えるようになります。

## 音量の調節

サウンドの音量調節を行うツールとして、[ ボリュームコントロール ( VOLUME . EXE ) ] があります。次の手順で音量調節を行ってください。

- 1** [ メイン ] グループから [ ファイルマネージャ ] アイコンをダブルクリックして、ファイルマネージャを起動します。
- 2** Windowsディレクトリの VOLUME . EXE をダブルクリックしてボリュームコントロールユーティリティを起動します。
- 3** 音量を調整します。  
ボリュームコントロールユーティリティの使用方法は、[ ボリュームコントロール ] のヘルプをご覧ください。



- ・ ボリュームコントロールユーティリティでは、サウンドボード ( PC - 9801 - 86 ) の音量調節はできません。詳しくは [ ボリュームコントロール ] のヘルプをご覧ください。
  - ・ システムセットアップメニューのマイクボリュームに関する設定は、Windows 3.1上では無効になります。
-



## Windows 3.1の強化機能

Windows 3.1をアップグレードしたことにより、本機で使用できる強化機能は次のとおりです。

### 19200bpsの通信速度の利用

Windows 3.1上では19200bpsまでの通信速度が利用可能です。

利用する際の注意事項は、以下のとおりです。

- ・ RS-232Cでの通信は、CPUなどの通信先のハードウェア性能や利用するアプリケーションソフト、またはマルチタスクで使用しているかなどの条件によって大きく影響されます。このため、19200bpsで安定した通信ができない場合があります。
- ・ Windowsの[アクセサリ]グループにある[イメージスキャナ]で指定できるデータ転送速度は9600bpsまでです。19200bpsでのデータ転送はできません。
- ・ COM4のシリアルポートを指定した場合には、75bps、150bpsの通信速度は使用できません。
- ・ 2nd-CCUをお使いになる場合は、シリアルポートはCOM3に接続し、FAXモデムをお使いになる場合は、シリアルポートはCOM4に接続してください。
- ・ 2nd-CCUは赤外線通信用としてお使いください。



MS-DOS 6.2のSPEEDコマンドとSWITCHコマンドでも、従来の通信速度に加えて19200bpsを指定することができます。指定方法は、他の通信速度と同じですので、MS-DOS 6.2のマニュアルをご覧ください。

---

Windows 3.1で19200bpsの通信速度を利用する場合には、次の設定を行います。

- ・ シリアルポート(コントロールパネル)

シリアルポートの通信条件を設定する場合に使用します。

- 1** [メイン]グループの[コントロールパネル]をダブルクリックし、さらに[シリアルポート]をダブルクリックします。  
[シリアルポートの設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 設定を変更するポートを選択して[設定]ボタンをクリックし、設定を行います。
- 3** 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[終了]ボタンをクリックします。

- ・ カードファイル

カードファイルに記入した電話番号に電話をかける場合に使用します。

- 1** [アクセサリ]グループの[カードファイル]をダブルクリックし、[カード]メニューを選択します。
- 2** [自動ダイヤル]コマンドを選択します。  
[自動ダイヤル]ダイアログボックスが表示されます。
- 3** [詳細設定]ボタンをクリックして、設定を行います。
- 4** 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[ファイル]メニューから[カードファイルの終了]を選択します。

- ・ ターミナル

他のコンピュータと接続して情報交換(パソコン通信など)を行う場合に使用します。

- 1** [アクセサリ]グループの[ターミナル]をダブルクリックし、[設定]メニューを選択します。
- 2** [通信条件]コマンドを選択します。
- 3** [通信条件の設定]ダイアログボックスで設定を行います。
- 4** 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[ファイル]メニューから[ターミナルの終了]を選択します。

## ソフトウェアパワーOFF機能

ソフトウェアパワーOFF機能を利用するには、次の手順で設定します。

- 1 「WIN.INI」ファイルを修正します。[プログラムマネージャ]の[アイコン]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[コマンドライン]ボックスに以下のように入力します。  
<ドライブ名>には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。

```
notepad <ドライブ名>:\windows\win.ini
```

- 2 [メモ帳]が起動しますので、「WIN.INI」ファイルの[windows]セクションにある以下の行に、wspowoff.exeを追加します。

例 変更前      load= xxx    xxx

                 変更後      load= xxx    xxx    wspowoff.exe

- 3 [ファイル]メニューの[上書き保存]コマンドで保存した後、[メモ帳]を終了します。
- 4 続いて「SYSTEM.INI」ファイルを修正します。[プログラムマネージャ]の[アイコン]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[コマンドライン]ボックスに以下のように入力します。  
<ドライブ名>には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。

```
notepad <ドライブ名>:\windows\system.ini
```

- 5 [メモ帳]が起動しますので、「SYSTEM.INI」ファイルの[386Enh]セクションに次の行を追加します。

```
device=vpowwach.386
```

- 6 [ファイル]メニューから[上書き保存]を選択した後、[メモ帳]を終了します。

- 7 Windows 3.1を再起動します。

## Windows 3.1の注意事項

### スワップファイルを利用する場合のご注意

Windowsをエンハンスドモードで実行する場合、情報を一時的にメモリからハードディスクに移し、メモリの空き容量を確保します。その際、情報をスワップファイルに格納します。スワップファイルの設定は、コントロールパネルの「エンハンスドモード」アイコンで行います。[スワップファイルの設定]ダイアログボックスの「最大のサイズ」、「望ましいサイズ」に表示される容量はハードディスクの空き容量だけで決定されるわけではありません。

「最大のサイズ」はハードディスクの空き容量に依存しますが、「望ましいサイズ」はコンピュータに実装されているメモリが少ない場合や、Windowsを起動する前に大量のメモリを消費している場合、ハードディスクの空き容量に関係なく、「望ましいサイズ」の容量は増加しません。

「新しいサイズ」には、指定したドライブの空き容量分を確保することができますが、メモリ容量が少ない場合には「望ましいサイズ」以上の値を指定しても、実際には「望ましいサイズ」に表示された容量分のみをスワップファイルとして使用します。

### FAXモデムモデルの内蔵FAXモデムボード、およびプラグ&プレイ対応の周辺機器を利用する場合のご注意

本機でWindows 3.1の使用時に、別売のプラグ&プレイ対応の周辺機器を利用するには、別売の「プラグ&プレイサポートソフトウェア」が必要です。

また、Windows 3.1上で内蔵FAXモデムボードを使用するには、別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールするか、FAXモデムボードのディップスイッチを「従来互換モード」に切り替える必要があります。

プラグ&プレイサポートソフトウェアについて、詳しくは「その他のソフトウェアを利用する」の「プラグ&プレイサポートソフトウェアの利用」をご覧ください。

FAXモデムボードのディップスイッチを変更する方法については、『ステップアップガイド』をご覧ください。

# Windows NTを利用する

本機で、Windows NT Workstation 3.51\*、Windows NT Server 3.51\*\*（以下、Windows NT 3.51）およびWindows NT Workstation 4.0\*\*\*、Windows NT Server 4.0\*\*\*\*（以下、Windows NT 4.0）を利用する場合、通常のセットアップ以外にいくつかのドライバをアップデートする必要があります。

ここではWindows NTが利用できるまでの手順について説明します。

- \* Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51
- \*\* Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51
- \*\*\* Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
- \*\*\*\* Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0

## Windows NT 3.51の利用.....

本機でWindows NT 3.51をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT 3.51のセットアップ
  - ・ 「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する
  - ・ Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項
  - ・ Windows NT 3.51をセットアップする
  - ・ ドライバをアップデートする
2. 内蔵アクセラレータの利用
3. リモートアクセスサービスでの FAXモデムボードの利用
4. Windows NT 3.51アップデートサービス Service Pack 5の利用



- ・ セットアップを行う前に「アップグレードディスク」を作成しますが、この「アップグレードディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」には、マニュアルに記載されていない補足事項が書かれています。セットアップを行う前に必ずお読みください。
- ・ 「1. Windows NT 3.51のセットアップ」がすべて終了してから、「2. 内蔵アクセラレータの利用」以降を行ってください。
- ・ ドライバのインストールを行う場合は、Administrator権限を持ったユーザーで行ってください。
- ・ 本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他機種では使用しないでください。



## 5 画面の表示に従って、ファイルをコピーします。

作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 3.51をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

### Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項

Windows NT 3.51セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

#### ・拡張ボードについて

- ・ 本体内蔵 FAX モデムボードは出荷時にはプラグ&プレイモードになっています。このボードを Windows NT 3.51上でお使いになる場合、ボードのディップスイッチを従来互換モードに変更してしてください。この設定を行わないと、これらボードは使用できません。ボードのディップスイッチの変更については、本体添付の『ステップアップガイド』をご覧ください。
- ・ PC-9821V233、V200に内蔵のサウンド機能を利用してMIDIデータの再生を行うことはできません。
- ・ プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は、各ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ PC-9801-107、108ネットワークボードをお使いの場合、Windows NT 3.51をセットアップする前に、ボードのハードウェア設定を行ってください。設定方法については、ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ PC-9801-107、108ネットワークボードをお使いになる場合、ボード添付の『ドライバディスク』のドライバを使用してください。

#### ・キーボードについて

- ・ PC-9800-106 キーボード( PC-9801-116 )をお使いの場合は、Windows NT 3.51標準の 106 キーボードドライバを使用してください。キーボード添付のドライバは使えません。

## Windows NT 3.51をセットアップする

本機にWindows NT 3.51をセットアップを行う場合、特別な手順はありません。Windows NT 3.51のマニュアルをご覧になり、セットアップを行ってください。



- ・ セットアップを行う前に、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のルートディレクトリにある、「README.TXT」をお読みください。
  - ・ ディスプレイの設定は「解像度 640×400、ノーマルモード 16色」で行ってください。
  - ・ Windows NT 3.51セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、TABキーを押しながら本機の電源をONにすると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。
- 

セットアップ後、正常にWindows NT 3.51が再起動したら、次の「ドライバをアップデートする」を行ってください。

## ドライバをアップデートする

Windows NT 3.51のドライバをアップデートします。「Windows NT 3.51アップデートディスク」には、本機の機能を有効にお使いいただくため、Windows NT 3.51のドライバが保存されています。ここでは、アップデートの手順について説明します。

**1** 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

**2** Windows NT3.51のコマンドプロンプトから、次のように入力します。

```
C: <enter>  
CD ¥ <enter>
```

カレントがCドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

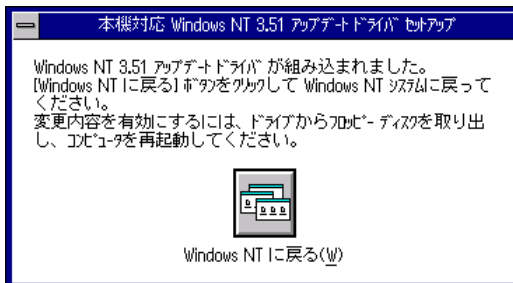
```
NTUPDATE <enter>
```



- 3** 次のセットアップの画面が表示されます。ダイアログに表示されている内容をよく確認した上で [OK] ボタンをクリックしてください。



- 4** ファイルのコピーが開始されます。
- 5** コピー終了後、次の画面が表示されたら、[ Windows NT ] に戻るボタンをクリックします。



- 6** フロッピーディスクドライブから「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出して、Windows NT 3.51を再起動させます。

以上で Windows NT 3.51のセットアップは終了しました。「2. 内蔵アクセラレータの利用」に進んでください。

## 2. 内蔵アクセラレータの利用

ここでは、本機内蔵アクセラレータの設定について説明します。

本機では、「Windows NT 3.51 アップデート ディスク」に含まれているアクセラレータドライバを使用して、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、65,536色、16,777,216色
800×600	256色、65,536色、16,777,216色
1024×768	256色、65,536色
1280×1024	256色

アクセラレータドライバのセットアップは次の手順で行います。

- 1 [メイン]グループにある[コントロールパネル]の[ディスプレイ]を起動します。
- 2 [ディスプレイの変更]ボタンをクリックします。
- 3 [変更]ボタンをクリックします。
- 4 [その他]ボタンをクリックします。  
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。
- 5 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。フロッピーディスクを入れたドライブのMGASG64ディレクトリを指定して、[OK]ボタンをクリックします。  
  
C: ¥MGASG64
- 6 [モデル]のリストボックスから、[内蔵アクセラレータ マトロックス・グラフィックス社製MGA-1064SG]を選択して、[組み込む]ボタンをクリックします。
- 7 [はい]ボタンを選択します。  
既存のドライバが存在する場合は、既存のドライバを使用するかどうかを聞いてくるので、[新しいドライバ]ボタンを選択します。  
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。
- 8 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示するメッセージが表示されたら、ドライブ名とディレクトリ名を確認します。  
C: ¥MGASG64を指定して[続行]ボタンをクリックします。

- 9 ドライバ組み込み結果が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。
- 10 ドライバ起動に関するメッセージが表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。
- 11 「新しい設定を有効にするにはWindows NTを終了して再起動する必要があります」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブから「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出し、[ 再起動する ] ボタンをクリックします。

以上でアクセラレータドライバのセットアップが終了しました。次回起動時より、アクセラレータドライバが有効になります。

### 3. リモートアクセスサービスでのFAXモデムボードの利用

本体内蔵FAXモデムボードをお使いになる場合、ドライバ、リモートアクセスサービスの設定以外に、Windows NT 3.51の MODEM.INF を編集する必要があります。ここでは、MODEM.INF の編集方法について説明します。ドライバ、リモートアクセスサービスの設定については、Windows NT 3.51のマニュアルをご覧ください。



- ・ MODEM.INFの編集前に、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」をお読みください。
- ・ FAXモデムボードは、必ず従来互換モードに設定してください。
- ・ MODEM.INFの編集を行う場合は、Administrator 権限を持ったユーザーで行ってください。
- ・ MODEM.INFの編集後に、Microsoft® Windows NT® 3.51アップデートサービス「Service Pack 5」を適用する場合、「4. Windows NT 3.51アップデートサービスService Pack 5の利用」をご覧ください。
- ・ MODEM.INFの編集後にネットワークの設定を行った場合、MODEM.INFの内容が元に戻る可能性があります。その場合は、バックアップしたMODEM.INFを使用するか、再編集してください。

## MODEM.INFの編集

本体内蔵FAXモデムボードをお使いになる場合、次の手順でMODEM.INF を編集します。

- 1 Windows NT 3.51のコマンドプロンプトを起動し、次のように入力します。

```
C: [↵]  
CD ¥ [↵]
```

カレントディレクトリが、Cドライブのルートであることを確認して、次のように入力し [メモ帳] を起動します。

```
NOTEPAD README.TXT [↵]
```

- 2 Windows NT 3.51のコマンドプロンプトをもう一つ起動し、次のように入力します。

```
%SystemDrive% [↵]  
CD %SystemRoot%¥system32¥ras [↵]
```

カレントディレクトリが、RASであることを確認して、次のように入力し [メモ帳] を起動します。

```
NOTEPAD MODEM.INF [↵]
```

- 3 [メモ帳]に MODEM.INF が表示されたら、**[CTRL]** + **[HELP]** キーを押して、MODEM.INF の最後に移動します。

- 4 README.TXTに記述されているモデムの情報から、お使いのボードにあったモデムの記述を MODEM.INFに貼り付けます。

- 5 貼り付けた内容に間違いがないことを確認して、[メモ帳]の[ファイル]-[上書き保存]を選択し MODEM.INF を保存します。

- 6 2つの [メモ帳] を終了します。

- 7 編集したMODEM.INFのバックアップを行います。手順2で起動したコマンドプロンプトから次のように入力してください。

```
Copy modem.inf modem.up [↵]
```

- 8 コマンドプロンプトを終了して、Windows NT 3.51を再起動します。

以上で MODEM.INF の編集は終了しました。次回起動時より本体内蔵の FAXモデムボードをリモートアクセスサービスで利用できます。

## 4. Windows NT 3.51アップデートサービスService Pack 5の利用

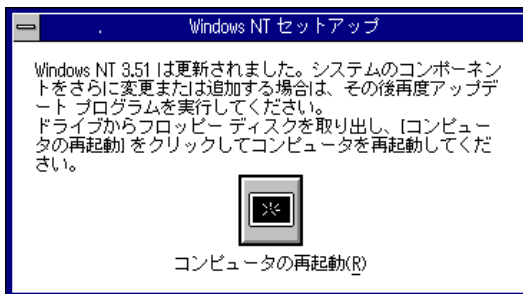
本機で Microsoft® Windows NT® 3.51 アップデート サービス「Service Pack 5」(以下 Service Pack 5)を適用する場合、必ず次の手順で行ってください。



- Service Pack 5インストール後は再起動せずに、ドライバのアップデートを必ず行ってください。
- Service Pack 5をインストールする前に、Service Pack 5の「README.TXT」をお読みください。
- Service Pack 5を適用すると、MODEM.INFファイルが上書きされます。MODEM.INFを編集している場合は、Service Pack 5を適用する前に必ずMODEM.INFをフロッピーディスクなどにバックアップしてください。このとき、バックアップするMODEM.INFの名前を、MODEM.ORGにはしないでください。  
Service Pack 5適用後、再編集するか、バックアップしたMODEM.INFを使用してください。

**1** Service Pack 5 をインストールします。

**2** Service Pack 5 ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。





ここでは再起動を行わず、タスク スイッチ( **GRPH** + **TAB** を何度か押す)でプログラム マネージャに戻り、必ず次の操作を行ってください。

**3** ドライバの再アップデートを行います。  
[ コマンドプロンプト ] を起動します。

**4** 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

**5** Windows NT3.51のコマンドプロンプトから、次のように入力します。

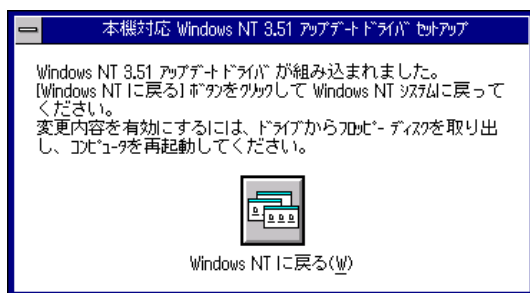
C:   
CD¥ 

カレントがCドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

NTUPDATE 


**6** セットアップの画面が表示されますので、[ OK ] ボタンをクリックします。

**7** コピー終了後、次の画面が表示されたら、フロッピーディスクドライブから「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出し、[ Windows NTに戻る ] ボタンをクリックします。




**8** タスクスイッチ( **GRPH** + **TAB** )を何度か押す )でService Pack 5のインストール(Windows NT Setup )に戻り、[ コンピュータの再起動 ] ボタンをクリックしてシステムを再起動してください。

以上で Service Pack 5のインストールが終了しました。

 Microsoft® Windows NT® 3.51アップデートサービス「Service Pack 5」についての詳しい内容は、「はじめに」の「 ソフトウェアの最新情報のお知らせ 」に記載されている各種サービスにより提供しています。

---

 NEC製以外のWindows NT 3.51並びに Service Pack をご利用の方は、各OSメーカーにお問い合わせください。

---

## Windows NT 4.0の利用 .....

本機でWindows NT 4.0をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT 4.0のセットアップ
  - ・「Windows NT 4.0アップデートディスク」を作成する
  - ・ Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項
  - ・ Windows NT 4.0をセットアップする
  - ・ ドライバをアップデートする
2. 内蔵アクセラレータの利用
3. 本機内蔵FAXモデムボードのセットアップ
4. Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 2の利用



- ・ 「1.Windows NT 4.0のセットアップ」がすべて終了してから、「2.内蔵アクセラレータドライバの利用」以降を行ってください。
- ・ ドライバのインストールを行う場合は、Administrator権限を持ったユーザで行ってください。
- ・ 本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他の機種では使用しないでください。

セットアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- ・ 1.44 Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク 2枚  
(注意:フォーマット時にシステムの転送は行なわないでください。)

これらフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

- 「システム修復ディスク」
- 「Windows NT 4.0アップデートディスク」

ここでは、次のようなドライブ構成になっている場合を例に説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

Windows 95 がインストールされているドライブ	A
フロッピーディスクドライブ	C

## 1. Windows NT 4.0のセットアップ

「Windows NT 4.0アップデートディスク」を作成する

ここでは、「Windows NT 4.0アップデートディスク」の作成を行います。

内蔵ハードディスクには Windows NT 4.0のドライバがコピーされています。これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。

**1** Windows 95の[スタート]メニューから、[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]をクリックして、MS-DOSプロンプトを起動します。

**2** 用意しておいた「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

**3** MS-DOSプロンプトから次のように入力します。

```
A: (F)
CD \NT40 (F)
```

**4** カレントディレクトリが「NT40」であることを確認し、MS-DOSプロンプトから次のように入力します。このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロン「:」は付けしないでください。

```
CDNTUP C (F)
```

**5** 画面の表示に従って、ファイルをコピーします。

作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 4.0をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

### Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項

Windows NT 4.0セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

#### ・拡張ボードについて

- ・ 本体内蔵 FAX モデムボードは出荷時にはプラグ&プレイモードになっています。このボードを Windows NT 4.0上でお使いになる場合、ボードのディップスイッチを従来互換モードに変更してしてください。この設定を行わないと、これらボードは使用できません。ボードのディップスイッチの変更については、『ステップアップガイド』をご覧ください。
- ・ プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は、各ボード添付のマニュアルを参照してください。



## Windows NT 4.0をセットアップする

Windows NT 4.0セットアップ終了後、「ドライバをアップデートする」に進んでください。



- ・「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにWindows NT 4.0の補足事項を記述した「NECREAD.TXT」および「README.TXT」が格納されています。セットアップを行う前にお読みください。
- ・本機内蔵FAXモデムボードを使用するリモートアクセスサービスの設定は、Windows NT 4.0のセットアップ時ではなく、セットアップ終了後に行ってください。モデムのセットアップ方法は「3. 本機内蔵FAXモデムボードのセットアップ」をご覧ください。
- ・Windows NT 4.0セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、TABキーを押しながら本機の電源をONにすると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。

## ドライバをアップデートする

「Windows NT 4.0アップデートディスク」には、Windows NT 4.0の機能を有効に利用するための最新のドライバが保存されています。ここでは、アップデートの手順について説明します。

- 1 [スタート]メニューから[プログラム]-[コマンドプロンプト]をクリックして、コマンドプロンプトをクリックします。
- 2 「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 Windows NT 4.0のコマンドプロンプトから、次のように入力します。

```
C: >
CD ¥ >
```

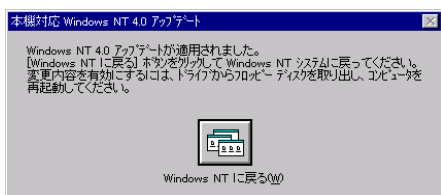
カレントがCドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

```
NTUPDATE >
```

- 4** 次のセットアップの画面が表示されます。ダイアログに表示されている内容をよく確認した上で、[OK] ボタンをクリックしてください。



- 5** コピー終了後、次の画面が表示されたら、[ Windows NT ]に帰るボタンをクリックします。



- 6** フロッピーディスクドライブより『Windows NT 4.0アップデートディスク』を取り出して、Windows NT 4.0を再起動させます。

以上でWindows NT 4.0のセットアップは終了しました。アップデートしたドライバは再起動後有効になります。正しく起動できることを確認して「2. 内蔵アクセラレータの利用」に進んでください。

## 2. 内蔵アクセラレータの利用

ここでは、本機内蔵アクセラレータの設定について説明します。

本機では、「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」に含まれているアクセラレータドライバを使用して、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640 × 480	256色、65,536色、16,777,216色
800 × 600	256色、65,536色、16,777,216色
1024 × 768	256色、65,536色
1280 × 1024	256色

アクセラレータドライバのセットアップは次の手順で行います。

- 1 [ スタート ] ボタンをクリックし、[ 設定 ]-[ コントロールパネル ] をクリックします。
- 2 [ 画面 ] アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ ディスプレイの設定 ] タブをクリックします。
- 4 [ ディスプレイの種類 ] ボタンをクリックします。
- 5 [ 変更 ] ボタンをクリックします。
- 6 [ ディスク使用 ] ボタンをクリックします。  
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。
- 7 「Windows NT 4.0 アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。フロッピーディスクをセットしたドライブのMGASG64ディレクトリを指定して、[ OK ] ボタンをクリックします。  
  
C:¥ MGASG64
- 8 [ ディスプレイ ] リストボックスから、「内蔵アクセラレータ マトロックス・グラフィックス社製MGA-1064SG」を選択します。
- 9 [ OK ] ボタンをクリックします。
- 10 ドライバ組み込み結果が表示されるので、[ OK ] ボタンをクリックします。
- 11 [ 閉じる ] ボタンをクリックします。
- 12 [ 閉じる ] ボタンをクリックします。
- 13 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」を取り出し、[ はい ] ボタンをクリックします。

以上でアクセラレータドライバのセットアップが終了しました。次回起動時より、アクセラレータドライバが有効になります。

### 3. FAXモデムボードのセットアップ

本機内蔵FAXモデムボードのセットアップ手順について説明します。

- 1 [コントロールパネル]の[モデム]をクリックします。
- 2 [新しいモデムのインストール]画面で、[モデムを一覧から選択するので検出しない]をチェックします。
- 3 [次へ]ボタンをクリックしてください。
- 4 [ディスク使用]ボタンをクリックします。
- 5 「Windows NT 4.0 アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 6 [フロッピー ディスクからインストール]画面で、次のように入力し、[OK]ボタンをクリックします。

C: ¥MODEM

- 7 [Value Star内蔵FAXモデム]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
- 8 どのポートにインストールするかを聞いてくるので、[選択したポート]をチェックします。
- 9 [COM3]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



内蔵FAXモデムは、通常COM3に割り当てられますが、システムセットアップメニューで[2nd CCU]を[使用しない]に設定した場合は、COM2に割り当てられます。

- 10 [所在地情報]画面で、所在地情報を設定して[次へ]ボタンをクリックします。



[所在地情報]画面は、1回目のモデムセットアップ時のみ表示されます。既に他のモデムをセットアップしてある場合などは、[所在地情報]画面は表示されません。

**11** [モデムは正常にセットアップされました]というメッセージが表示されますので、[完了]ボタンをクリックします。

**12** [モデムのプロパティ]画面になりますので、[閉じる]ボタンをクリックしてください。

以上で、内蔵FAXモデムボードのセットアップは終了しました。

この後、リモートアクセスサービスを設定する場合は、[コントロールパネル]の[ネットワーク]を起動して行ってください。リモートアクセスサービスの設定についてはWindows NT 4.0のマニュアルやオンラインヘルプをご覧ください。

## 4. Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 2 の利用

本機で Microsoft® Windows NT® 4.0 アップデート サービス「Service Pack 2」(以下 Service Pack 2)を適用する場合、必ず次の手順でインストールしてください。



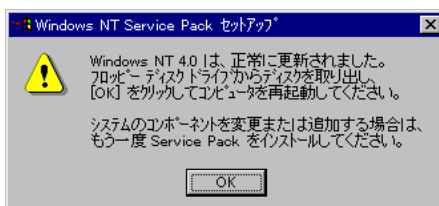
- Service Pack 2インストール後は、ドライバのアップデートを必ず行ってください。
- Service Pack 2をインストールする前に、Service Pack 2の「README.TXT」をご覧ください。

**1** Service Pack 2 をインストールします。



ファイルの上書きを確認するメッセージが表示された場合は、[すべて上書きしない]を選択してください。

**2** Service Pack 2 ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。



**3** [ OK ] ボタンをクリックして、Windows NTを再起動させます。再起動後に、ドライブの再アップデートを行ないます。

**4** [ スタート ]メニューから[ プログラム ]-[ コマンドプロンプト ]をクリックします。

**5** 「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

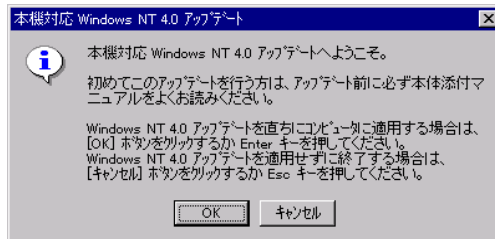
**6** Windows NT のコマンドプロンプトから、次のように入力します。

C:   
CD ¥ 

カレントが、Cドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

NTUPDATE 

**7** 次のセットアップの画面が表示されます。ダイアログに表示されている内容をよく確認した上で[ OK ] ボタンをクリックしてください。



**8** コピー終了後、次の画面が表示されたら、[ Windows NTに戻る ] ボタンをクリックします。



**9** フロッピーディスクドライブから「Windows NT 4.0アップデートディスク」を取り出して、Windows NT 4.0を再起動させます。



Microsoft® Windows NT® 4.0アップデートサービス「Service Pack 2」についての詳しい内容は、「はじめに」の「ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されている各種サービスにより提供しています。

# OS/2を利用する

本機でOS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、およびOS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合の設定や手順について説明します。

OS/2 Warp V3-日本語版、  
OS/2 Warp Connect V3-日本語版、  
OS/2 Warp 4-日本語版の利用.....



OS/2で領域確保可能な領域の最大サイズは2047Mバイトです。

## ディスプレイの設定

本機で、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、本機に搭載されているウィンドウアクセラレータは利用できません。ディスプレイドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

- 1 インストール途中で、本機が再起動すると「システム構成」ウィンドウが表示されます。
- 2 ここで、「ディスプレイ」を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



- ・ 「本体 640×480 256色モード」を選択した場合、WIN-OS/2環境はご利用できません。
- ・ OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合は、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」内の「本体 640×480 256色 GRADD」ディスプレイドライバをインストールすると、WIN-OS/2ウィンドウ表示を使用することができます。インストール方法はOS/2に添付のマニュアルの「OS/2 Warp 4-日本語版ご利用にあたって」をご覧ください。

## CD-ROMの設定

本機でOS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、CD-ROMドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

- 1** インストール途中で、本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。
- 2** ここで[CD-ROM装置]を選択すると、CD-ROM一覧が表示され、使用したいCD-ROMを選択することができます。



本機内蔵CD-ROMドライブをご使用になる場合、[その他の専用インタフェースCD-ROM]を選択してください。

---

## 拡張電源管理の設定

- (1) OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、別途「OS/2 ドライバディスク」が必要です。「OS/2 ドライバディスク」の「拡張電源管理ドライバ」をインストールすると、ソフトウェアパワーオフ機能が利用できます。なお、OS/2インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

- 1** インストール途中で本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。
- 2** [拡張電源管理 (APM)]を選択すると、[拡張電源管理 (APM)のサポート]ウィンドウが表示されます。
- 3** [インストールしない]を選択します。



## (2) OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」内の「ソフトウェアパワーオフ機能」をインストールする必要があります。インストール手順については、OS/2 に添付のマニュアルの『OS/2 Warp 4-日本語版 ご利用にあたって』をご覧ください。なお、OS/2 インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

- 1 インストール途中で本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。
- 2 [次ページ]ボタンを選択すると[システム構成(続き)]ウィンドウが表示されます。
- 3 [拡張電源管理(APM)]を選択すると[拡張電源管理(APM)のサポート]ウィンドウが表示されます。
- 4 [インストールしない]を選択します。

## 内蔵FAXモデムボードの設定

本体内蔵FAXモデムボードは出荷時にはプラグ&プレイモードに設定されています。本ボードをOS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版でお使いになる場合、ボードのディップスイッチを従来互換モードに変更してください。この設定を行わないと、本ボードは使用できません。ボードのディップスイッチの変更については、『ステップアップガイド』の「FAXモデムボード」をご覧ください。

また、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版をお使いになる場合は、CONFIG.SYSの記述を以下のように変更してください。ここでは、A:ドライブにOS/2がインストールされている場合を例にして、説明しています。

変更前 A:¥OS2¥BOOT¥COM.SYS (1,0030,04,I Ø2,00B0,03,I Ø3,00B2,12,I)

変更後 A:¥OS2¥BOOT¥COM.SYS (1,0030,04,I Ø2,00B0,03,I Ø3,00B2,12,I)  
(COMポート, I/Oアドレス, IRQ, I)

COMポート :本ボードを割り当てるCOMポートを指定します。  
I/Oアドレス :本ボードに設定しているI/Oアドレスを指定します。  
IRQ :本ボードに設定しているIRQ番号を指定します。

例 I/Oアドレスを08B0、IRQを6に設定したボードをCOM5に割り当てる場合

A: ¥OS2¥BOOT¥COM.SYS( 1, 0030, 04, I Ø2, 00B0, 03, I )  
( 3, 00B2, 12, I Ø5, 08B0, 06, I )

## サウンドの設定

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版では、サウンド機能が使用できません。そのため、インストール時にサウンド機能を組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

- 1** インストール途中で本機が再起動すると「システム構成」ウィンドウが表示されます。
- 2** ここで「マルチメディア」を選択すると「装置選択と設定」ウィンドウが表示されます。この際、「システムの装置としてインストールする」にサウンドドライバがある場合、すべて「<<除去」を選択し、削除してください。

# NetWareを利用する

本機で、NetWare(ファイルサーバ)を利用する場合の設定や手順について説明します。

## NetWareを利用する前に

本章の手順を行う前に、「MS-DOS 6.2の利用」をご覧ください、MS-DOS 6.2をインストール、アップグレードしてください。

なお、このとき、Windows 95の領域を解放するには、解放する前に¥NW312、¥NW41、¥1NWのディレクトリおよびそれらのディレクトリ内のファイルをフロッピーディスクにコピーしておいてください。そしてMS-DOS 6.2をインストール、アップグレードした後で、フロッピーディスクから¥NW312、¥NW41、¥1NWのディレクトリおよびそれらのディレクトリ内のファイルをハードディスクにコピーしてください。この場合、本章の記述中の「Windows 95がインストールされているドライブ」を「MS-DOS 6.2がインストールされているドライブ」と読み替えてください。

## NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用...

NetWare 3.12Jを利用するには次の作業が必要です。

- NetWareのアップグレード
- SCSIドライバのセットアップ
- LANドライバのセットアップ

## NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSI マネージャ/ハードディスクドライバ)
- AIC6360.DSK (PC-9801-100対応ASPI SCSI マネージャ/  
ハードディスクドライバ)
- NECASPI.DSK (ASPI トランスポートレイヤ)
- ASPICD.DSK (ASPI 対応CD-ROMドライバ)
- PC981D.DSK (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)
- NECSTUB.DSK (デバイスドライバサポートモジュール)
- PB4680.LAN (PCI対応ODIサーバドライバ)
- XLOAD.EXE (PCI対応NetWareローダユーティリティ)
- LOADER.EXE (PCI対応NetWareローダ)
- POFF3X.NLM (電源制御ユーティリティ)

次に手順を説明します。

- 1** NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動します。
- 2** NetWareのSYSTEMファイルを、手順1でMS-DOSを起動したドライブにインストールします。  
インストールの手順については、NetWareの『インストール』マニュアルをご覧ください。



インストールが終了すると、自動的に「SERVER.EXE」が実行されますが、アップグレードを行うため、サーバコンソールから「DOWN」と入力した後、「EXIT」と入力して終了してください。



SYSTEMファイルをインストールしたドライブおよびディレクトリを確認（メモを取るなど）しておいてください。

- 3** コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブおよびカレントディレクトリを変更します。  
<ドライブ名> には、Windows 95がインストールされているドライブ名を指定します。

<ドライブ名> :

CD ¥NW312

- 4** 次のように入力して、アップグレードを実行します。  
<ドライブ名>、<ディレクトリ名> には、NetWareのSYSTEMファイルをインストールしたドライブ、ディレクトリを指定します。

UPNET312 <ドライブ名> : ¥ <ディレクトリ名>

(このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません)

例 UPNET312 A: ¥SERVER.312

- 5** 「NetWare3.12Jのアップグレードが終了しました。」というメッセージが表示されたら、カレントドライブおよびカレントディレクトリを手順2でインストールしたドライブおよびディレクトリに変更してください。

- 6** コマンドプロンプトから次のように入力します。

XLOAD LOADER.EXE SERVER.EXE /LD

- 7 NetWareの『SERVER.EXE』を実行して、ファイルサーバをインストールします。インストールの手順については、NetWareの『インストール』マニュアルをご覧ください。
- 8 SCSI インターフェイスボードのセットアップを行います。PC-9821X-B02L、PC-9801-100をお使いの場合、セットアップの方法は『SCSIドライバのセットアップ』をご覧ください。
- 9 B4680インターフェイスボードのセットアップを行います。SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lをお使いの場合、セットアップの方法は、『LANDライバのセットアップ』をご覧ください。SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06L以外のB4680インターフェイスボードをお使いの場合は、B4680インターフェイスボードに添付のマニュアルをご覧ください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

## SCSI ドライバのセットアップ

SCSIドライバには、次の4種類があります。

- ・ AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSI マネージャ/ハードディスクドライバ)
- ・ AIC6360.DSK (PC-9801-100対応 ASPI SCSI マネージャ/  
ハードディスクドライバ)
- ・ NECASPI.DSK (ASPI トランスポートレイヤ)
- ・ ASPICD.DSK (ASPI 対応CD-ROMドライバ)

### AIC7870.DSK

Adaptec社の提唱するASPI(Advanced SCSI Programming Interface)に対応したSCSI マネージャで、PC-9821V200/M7 model H2、J2内蔵CD-RドライブやPC-9821X-B02Lをお使いの場合に使用します。

使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

```
LOAD [パス名] AIC7870 [コマンドオプション]
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)
```

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

SLOT = PCIのデバイス番号に16を加算した値を指定することができます。省略した場合、デバイス番号の候補が表示されますので、その中から選択して番号を指定することもできます。

VERBOSE = SCSI アダプタの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)

## AIC6360.DSK

Adaptec社の提唱するASPIに対応したSCSI マネージャで、PC-9801-100をお使いの場合に使用します。

使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

LOAD [パス名] AIC6360[コマンドオプション]  
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

- PORT = PC-9801-100で使用するI/Oポートベースアドレスを指定できます。省略した場合、候補が表示されますので、その中から選んで番号を指定することもできます。
- SYNC = ドライバ初期化時の同期転送ネゴシエーションの有無を指定できます。(デフォルトはONです)
- ONの場合 全デバイスに対して同期転送ネゴシエーションを行う。
- OFFの場合 同期転送ネゴシエーションを行わず、BIOS設定に従う。
- VERBOSE = 本ドライバの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)



- ・「SBACKUP.NLM」を使ってバックアップを行う場合、「TAPEDA1.DSK」をロード後、「SBACKUP.NLM」をロードしてください。また、DIB1- ドライバは、DIBIDA1をご利用ください。
- ・ハードディスク以外の装置(CD-ROM、DAT)については、別途ドライバが必要です。たとえば、CD-ROM装置には「ASPIDC.DSK」またはサードパーティ製ASPI仕様CD-ROMドライバが必要です。

---

## ASPIDC.DSK

Adaptec社の提唱するASPIに対応したCD-ROMドライバです。

使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

LOAD [パス名] ASPICD  
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)



ASPI仕様のSCSI マネージャがロードされていない場合、CD-ROM装置を認識できません。

---

## LANドライバのセットアップ

B4680インターフェイス SV-98/2-B05/B06、およびSV-98/2-B05L/B06L を使用する場合のセットアップ方法について説明します。

NetWareのインストール方法や用語などについては、NetWareの『マニュアル』をご覧ください。

### セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなLANドライバのロード行を追加します。

```
LOAD [パス名] PB4680 [コマンドオプション]
```

LANドライバをロードする際に指定できるコマンドオプションは、FRAME、BOARD、NAME、NODEの4種類です。

**FRAME** LANドライバが使用するフレームタイプを指定します。  
FRAMEオプションに指定可能な値は次のとおりです。

```
Ethernet_802.2
Ethernet_802.3
Ethernet_SNAP
Ethernet_II
```

各フレームタイプの詳細は、NetWareの『マニュアル』をご覧ください。1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てる場合には、BOARDオプションとともに指定してください。FRAMEオプションを指定しない場合はデフォルト値としてEthernet\_802.2となります。



FRAMEのタイプがファイルサーバとワークステーションで異なると通信ができませんので、注意してください。

**BOARD** 1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てるときに指定します。1つの物理ボードに1つのFRAMEしか割り当てない場合は必要ありません。BOARDオプションの値はユーザによって決められます。

BOARDオプションで指定できる値の範囲は、1～9999です。

たとえば、1つの物理ボードに4つのFRAMEを割り当てる場合、次のように指定します。

```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_11 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_SNAP BOARD=1
```

NAME 物理ボードに複数のFRAMEを割り当てた際、プロトコルとバインドを行うための名前を定義します。

たとえば、次のように指定します。

```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1 NAME=E_8023
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1 NAME=E_8022
BIND IPX TO E_8023 NET=XXXX
BIND IPX TO E_8022 NET=YYYY
```



NET= で指定される値(上記例では、XXXXとYYYY)は、1～8桁の16進数です。詳細については、NetWareの『マニュアル』をご覧ください。

NODE ユーザがノードアドレスを指定するためのオプションです。NODEオプションを指定した場合、指定したノードアドレスのローカルビットが自動的に設定されます。

例 00004C000001 (指定したアドレス)

02004C000001 (使用されるアドレス)

0010 (2進数表現)

ローカルビット



通常、指定する必要はありません。NODEオプションがない場合、LANドライバはボード上のROMのノードアドレスを使用します。ROMのノードアドレスから変更の必要性が生じた場合のみ指定してください。



## 複数枚ボード実装時のLANドライバのロードについて

本ボードを2枚以上実装した場合は、それぞれのボードに対してLANドライバをロードする必要があります。

たとえば、3枚のボードを実装した場合は、AUTOEXEC.NCFファイルに次のようなLANドライバのロード行を追加します。

```
LOAD A:PB4680      1枚目のボード
LOAD A:PB4680      2枚目のボード
LOAD A:PB4680      3枚目のボード
```

また、STARTUP.NCFファイルに次のような行を追加してください。

```
SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG=200
```

「MEG=」には、設定可能な最大値を設定します。詳細は、NetWareのマニュアル、またはSETコマンドで確認できます。

最大値はNetWare 3.12Jでは「200」、NetWare 4.1Jでは「300」です。



本インターフェースの最大実装可能枚数は、本機のPCIスロット数に制限されます。

## LANドライバのロードについての注意事項

PC-9867およびPC-9868のインターフェイスボードを使用する場合、LANドライバ(PC4680.LAN)は、ほかのLANドライバより先にロードしてください。

AUTOEXEC.NCFにLANドライバの設定をしている場合は、PC4680.LANのロード行をほかのLANドライバのロード行より前に記述してください。

## 電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWareサーバをシャットダウンできるようになります。

電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

### セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

```
LOAD <パス名>P0FF3X [コマンドオプション]
```

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

- |      |  |
|------|--|
| 省略時  | 電源スイッチをOFFにすると、約1分後にサーバのシャットダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。  |
| LOCK | LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFにしても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャットダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、手動でサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。 |

## NetWare® 4.1J(ファイルサーバ)の利用.....

NetWare 4.1Jを利用するには次の作業が必要です。

- ・ NetWareのアップグレード
- ・ SCSIドライバセットアップ
- ・ LANドライバのセットアップ

### NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- |               |   |
|---------------|---|
| ・ AIC7870.DSK | (PCI対応 ASPI SCSI マネージャ/ハードディスクドライバ)         |
| ・ AIC6360.DSK | (PC-9801-100対応 ASPI SCSI マネージャ/ハードディスクドライバ) |
| ・ NECASPI.DSK | (ASPI トランスポートレイヤ)                           |
| ・ ASPICD.DSK  | (ASPI 対応CD-ROMドライバ)                         |
| ・ PC981D.DSK  | (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)              |
| ・ NECSTUB.DSK | (デバイスドライバサポートモジュール)                         |
| ・ PB4680.LAN  | (PCI 対応ODIサーバドライバ)                          |

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク： 1枚
- このフロッピーディスクには「NetWare4.1Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1 NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動します。
- 2 あらかじめ用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントドライブおよびディレクトリを変更します。  
<ドライブ名>には、Windows 95がインストールされているドライブ名(通常は「A:」)を指定します。  
  
 <ドライブ名> :   
 CD ¥NW41
- 4 次のように入力します。  
  
 UPNET41 <フロッピーディスクドライブ名> :   
 (このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません)
- 5 「NetWare 4.1Jのアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、アップグレードディスクの完成です。
- 6 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールします。  
インストール手順については、NetWareの『インストール』マニュアルをご覧ください。



PC-9801-100、PC-9821X-B02L、内蔵ハードディスク、内蔵CD-ROMドライブをお使いの場合、インストール中に表示されるディスクドライバの選択画面で、**[INS]**キー(リストにないドライバのインストール)を押して、**[F3]**キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C: ¥

ディスクドライバの一覧が表示されますので、その中からドライバを選択してください。



SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lをお使いの場合、インストール中に表示されるネットワークドライバの選択画面で、**[INS]**キー（リストにないドライバのインストール）を押して、**[F-3]**キー（パスの変更）を押してください。ディレクトリパスの指定ウインドウが表示された後、アップグレードディスクのドライバ名を指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C: ¥

ネットワークドライバの一覧が表示されますので、その中からドライバを選択してください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

**7** NetWareのインストールが終了したら、サーバのコンソール画面で次のように入力してインストールユーティリティを起動します。

LOAD INSTALL

**8** [インストールオプション]の画面で、「プロダクトオプション」を選択してください。

**9** [その他のインストール操作]の画面で、「リストにはないプロダクトのインストール」を選択した後、**[F-3]**キー（パスの変更）を押してください。ディレクトリのパスの指定ウインドウが表示された後、「アップグレードディスク」のドライブとディレクトリを指定してください。

例 C: ¥

**10** ファイルのコピーが終了したら、後述の「電源制御ユーティリティのセットアップ」をご覧ください。AUTOEXEC.NCFファイルを書き替えてください。

## SCSI ドライバのセットアップ

「NetWare® 3.12 (ファイルサーバ)の利用」の「SCSIドライバのセットアップ」をご覧ください。

## LANドライバのセットアップ

「NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用」の「LANドライバのセットアップ」をご覧ください。なお、LANドライバのロード行のパス名は記述しないでください。

## 電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWareサーバをシャットダウンできるようになります。

電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

### セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルのSYSボリュームをマウントさせる記述の後に、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

```
LOAD P0FF4X [ コマンドオプション ]
```

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

省略時	電源スイッチをOFFにすると、約1分後にサーバのシャットダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。
LOCK	LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFにしても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャットダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、手動でサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。

# IntranetWare/NetWare® 4.11J (ファイルサーバ)の利用 .....

IntranetWare/NetWare 4.11J(以降、NetWare)を利用するには次の作業が必要です。

- ・ NetWareのアップグレード

## NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- ・ PC981D.DSK (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。

- ・1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク : 1枚  
このフロッピーディスクには「IntranetWare/NetWare4.11Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1** NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動します。
- 2** あらかじめ用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブにセットします。
- 3** MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントドライブおよびディレクトリを変更します。  
<ドライブ名>には、Windows 95がインストールされているドライブ名(通常は「A:」)を指定します。

<ドライブ名> :

CD ¥1NW

- 4** 次のように入力します。

UP1NW <フロッピーディスクドライブ名> :

(このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません)

- 5** 「IntranetWare/NetWare 4.11Jのアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、アップグレードディスクの完成です。

- 6** 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールします。インストール手順については、NetWareの『インストール』マニュアルをご覧ください。



内蔵ハードディスクや内蔵CD-ROMドライブをお使いの場合、以下の手順に従ってください。

インストール中に表示されるサーバドライブの選択: 概要画面で、「選択したディスク/LANドライブの追加選択あるいは変更」を選択し、PC98ID.DSKを選択してください。

ディスクドライブの選択の画面になります。「選択したドライブの選択解除」を選択してください。ドライブ名一覧が表示されますので、その中からPC98ID.DSKを選択してください。

「追加ドライブの選択」を選択してください。[INS] キー(リストのないドライブのインストール)を押して、[F3]キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの選択ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C: ¥

ドライブの一覧が表示されますので、その中からPC98ID.DSKを選択してください。

# その他のソフトウェアを利用する

本機で、別売のソフトウェアを利用する場合の設定や手順について説明します。

## N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版) Ver 6.2の利用 .....



- ・ N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)Ver 6.2は、Windows NT上では動作保障していません。
- ・ 本機では、N88-BASIC(86)およびN88-日本語BASIC(86) Ver 6.3は利用できません。

### テキスト画面についてのご注意

テキスト画面を使用する場合、WIDTH命令を使用して、表示する<桁数>を40桁に設定することはできません。

### グラフィック画面についてのご注意

グラフィック画面を使用する場合、SCREEN命令を使用して<画面モード>を白黒モードまたは高分解能白黒モードに設定することはできません。

### Windows 95上でのご注意

Windows 95上で使用する場合は、MS-DOSモードを起動してご利用ください。  
Windows 95のMS-DOSプロンプトを起動して使用することはできません。  
次に、MS-DOSモードを起動させる手順を説明します。

- 1** Windows 95の「スタート」メニューで「Windowsの終了」をクリックします。
- 2** 「Windowsの終了」画面から「MS-DOSモードでコンピュータを再起動する」を選択します。
- 3** 「はい」ボタンをクリックして、MS-DOSモードを起動させます。



# LAN マネージャ リモートアクセスサービスの利用 .....



Windows 95では、MS LAN マネージャリモートアクセスサービスは利用できません。

本機では、MS LAN マネージャ 2.1A/α (以下LAN マネージャ) リモートアクセスサービスで38400bpsの通信速度を利用することができます。



LAN マネージャリモートアクセスサービスを利用するには、次のソフトウェアがシステムにインストールされている必要があります。ただし、「1. LAN マネージャアップグレードディスクの作成」の手順では、Windows 95システムが必要です。必ず、アップグレードディスクの作成が終了してから、これらのソフトウェアのインストールを行ってください。

- MS-DOS 6.2  
「MS-DOS 6.2の利用」をご覧になり、MS-DOS 6.2をインストール、アップグレードしてください。
- 以下のいずれかのLAN マネージャ
  - 日本語MSマルチベンダ LAN マネージャ 2.1A  
MS-DOSクライアントパック
  - 日本語MSマルチベンダ LAN マネージャ 2.1A  
サーバパック内のMS-DOS LAN マネージャワークステーション
  - 日本語MSマルチベンダ LAN マネージャ 2.1c
- LAN マネージャリモートアクセスサービス

本機でLAN マネージャリモートアクセスサービスを利用するには、以下の手順でドライバのアップグレードを行ってください。

## 1 .LANマネージャアップグレードディスクの作成



アップグレードディスクの作成は、システムが購入時の状態か、バックアップCD-ROMからシステムをリストアした直後の状態で行ってください。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ 1.25Mバイトまたは1.44Mバイトでフォーマット済みの  
2HDフロッピーディスク :1枚

このフロッピーディスクには、あらかじめ次のラベルを貼っておいてください。機種名には、お使いの機種名を書いてください。

「LANマネージャアップグレードディスク 機種名」

- 1** 内蔵ハードディスクからWindows 95を起動し、MS-DOSプロンプトを実行します。
- 2** 準備したフォーマット済みの2HDフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3** MS-DOSプロンプトから次のように入力して、ディレクトリを作成します。

```
MD <フロッピーディスクドライブ名> : ¥LANMAN [↵]
```

例 フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

```
MD C:¥LANMAN [↵]
```

- 4** MS-DOSプロンプトから次のように入力して、LANマネージャアップグレードディスクを作成します。

```
XCOPY <ドライブ名>:¥LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>:¥ LANMAN /S [↵]
```

<ドライブ名>は、Windows 95がインストールされているハードディスクのドライブ名を指定します。

例 Windows 95がインストールされているドライブがAドライブで、フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

```
XCOPY A:¥LANMAN C:¥ LANMAN /S [↵]
```

## 2. リモートアクセスサービスのアップグレード

- 1** 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。  
Windows 3.1が起動している場合は終了させて、コマンドプロンプトの状態にします。
- 2** 「LANマネージャアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントドライブを変更します。  
  
    <フロッピーディスクドライブ名> :
- 例 フロッピーディスクドライブがCDドライブの場合  
        C:
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをLANMANディレクトリに変更します。  
  
    CD LANMAN
- 4** コマンドプロンプトから次のように入力して、インストールプログラムを実行します。  
  
    INSTRAS <ドライブ名> : ¥ <ディレクトリ名>
- <ドライブ名>、<ディレクトリ名> は、LANマネージャがインストールされているハードディスクのドライブ名、ディレクトリ名を指定します。  
  
    例 AドライブのLANMAN.DOSディレクトリにLANマネージャをインストールしている場合  
        INSTRAS A: ¥ LANMAN.DOS
- 5** しばらくすると、自動的にリモートアクセスサービスのセットアッププログラムが起動します。ここで **構成** を選択し、ポートとモデムの再構成を行ってください。

なお、リモートアクセスサービスのインストール/構成方法については、次のそれぞれのマニュアルをご覧ください。

- ・ LANマネージャ 2.1Aをご使用の場合  
    『MS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド』  
    『MS LANマネージャ 2.1Aご使用に際して』

- ・ LANマネージャ 2.1cをご使用の場合

『MS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド』

『Microsoft Windows NT Server 3.51\* 本製品の内容について』

\* Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51



- ・ PC-9801-101 RS-232C 第2～第3回線用 拡張インターフェイスボードを使用する場合は、インターフェイスボードに添付されているドライバはインストールしないでください。
- ・ PC-9861Kまたは、PC-9801-101拡張インターフェイスボードを使用する場合は、それぞれのインターフェイスボードでサポートされている最高の通信速度までご利用になれます。



Windows上でご利用の場合は、19200bpsより速い通信速度はご利用になれません。



モデムカード 2400( PC-9801N-J01 )またはFAXモデムカード( PC-9801N-J05 )を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・ 活線挿抜機能は使用できません。
- ・ 通信速度は、それぞれのPCカードでサポートされている最高通信速度まで使用できます。

また、FAXモデムカード( PC-9801N-J05 )を使用する前に、次の点に注意し、あらかじめFAXモデムカードセットのFAXモデムカードメニュー( MODEMSET.EXE )を使用して以下の設定を行ってください。

- ・ RS-232C回線番号をCOM2またはCOM3に設定。

FAXモデムカードメニューの使用方法については、FAXモデムカード添付の『FAXモデムカードセットご使用に際して』をご覧ください。

---

# プラグ&プレイサポートソフトウェアの利用....

MS-DOS 6.2およびWindows 3.1環境でプラグ&プレイ対応ボードをプラグ&プレイモードでご利用になる場合は、別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアが必要となります。本機でプラグ&プレイサポートソフトウェアを利用するには、必ず以下の手順でアップグレードを行ってください。

1. アップグレードディスクの作成
2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード

## 1. アップグレードディスクの作成

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ 2HDのフロッピーディスク :1枚  
2HDフロッピーディスクには、あらかじめ「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

**1** 本機の電源をONにして、内蔵のハードディスクからWindows 95を起動します。

**2** MS-DOSプロンプトを起動します。  
コマンドプロンプトから次のように入力してカレントディレクトリを変更します。

```
CD ¥PNP
```

**3** 「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。このときフロッピーディスクは書込可能状態にしておいてください。

**4** FORMATコマンドを使って「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」を初期化します。コマンドプロンプトから次のように入力してください。

```
FORMAT <ドライブ名> : /U /F:1.44
```

<ドライブ名>には、「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をセットしたフロッピーディスクドライブを指定します。

**5** アップグレードモジュールを「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」にコピーします。コマンドプロンプトから次のように入力してください。

```
FBACKPNP <ドライブ名> :
```

<ドライブ名>には、「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をセットしたフロッピーディスクドライブを指定します。

## 2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード

- 1 別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールします。インストールが完了すると、「本機を再起動してください。」という内容のメッセージが表示されますが、再起動させずにコマンドプロンプトの状態にしてください。

インストールの手順については、『プラグ&プレイサポートソフトウェアコンフィギュレーションユーティリティユーザズガイド』を参照してください。

- 2 「1. アップグレードディスクの作成」で作成した「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントドライブを変更します。

<ドライブ名> :

<ドライブ名>には、「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をセットしたフロッピーディスクドライブを指定します。

- 3 コマンドプロンプトから次のように入力してアップグレードを行います。

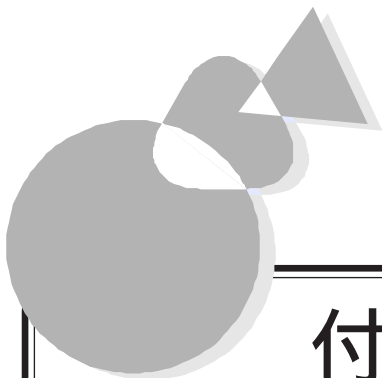
- ・ プラグ&プレイサポートソフトウェアのDOS版をインストールした場合  
UPPNP <ドライブ名1> : ¥<プラグ&プレイインストールディレクトリ名>
- ・ プラグ&プレイサポートソフトウェアのWindows版をインストールした場合  
UPPNP <ドライブ名1> : ¥<プラグ&プレイインストールディレクトリ名>  
<ドライブ名2> : ¥<Windows 3.1ディレクトリ名>

<ドライブ名1>には、プラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールしたドライブを、<ドライブ名2>には、Windows 3.1がインストールされているドライブを指定します。

例 プラグ&プレイサポートソフトウェアをBドライブの¥PLUGPLAYディレクトリに、Windows 3.1をBドライブの¥WINDOWSディレクトリにインストールしている場合

UPPNP B: ¥PLUGPLAY B: ¥WINDOWS

- 4 アップグレード終了後、本機を再起動してください。プラグ&プレイサポートソフトウェアがご使用になれます。



# 付録

本機を利用するための補足情報です。

固定ディスク起動メニューの利用  
FAT32ファイルシステムの利用

# 固定ディスク起動メニューの利用

ここでは、本機で固定ディスク起動メニューを利用する上での必要事項について説明します。

## 固定ディスク起動メニュー

[ 固定ディスク起動メニュー ]は、どのハードディスクのどの領域(ドライブ)からシステムを起動するかを選択するためのプログラムです。

次の条件のうち、どれか1つを満たしている場合、電源をONにしたときに[ 固定ディスク起動メニュー ]が表示されます。

- ・ B00T可になっている領域が複数ある場合
- ・ 本機内蔵ハードディスク以外の、別売のハードディスクを増設した場合

購入時の状態ではB00T可になっている領域は1つだけのため、[ 固定ディスク起動メニュー ]は表示されずにWindows 95が起動します。



上記の条件を満たしていながら、[ 固定ディスク起動メニュー ]が表示されない場合は、次の操作を行ってください。

- ・ キーボードの[ **TAB** ]キーを押しながら電源をONにします。このとき「ピピピ…」という音が鳴るまで、[ **TAB** ]キーを押したままにしてください。

[ 固定ディスク起動メニュー ]の画面では、どのディスク装置のどの領域(ドライブ)からシステムを起動するかを選択できます。

画面左には、ディスク装置名が表示されており、同じインターフェイスごとに1から順に装置番号が付けられます。また、画面右には下線が付いた装置内の領域名が表示されています。

固定ディスク起動メニュープログラム バージョンX.XX  
Copyright (C) NEC Corporation. XXX, XXXX

処 理：領域の選択(起動)	1: Windows 95	領域名
	2: RESERVE	
	3:	
	4:	
	5:	
	6:	
	7:	
	8:	
	9:	
	10:	
	11:	
	12:	
	13:	
	14:	
	15:	
	16:	

ディスク装置名 — 固定ディスク # 1

説明： . キー=領域の選択    f キー=装置の選択    リターンキー=起動  
         f・1キー=自動起動の設定

お使いの機種およびシステムの状況によって、表示される画面の内容は異なります。

[ 固定ディスク起動メニュー ]の例



システムを起動するには、、、、キーで起動したい装置、領域に反転表示を合わせて、キーを押します。

なお、[ FDISK オプション ]の「4. 領域情報を表示」で「BOOT」が「不可」になっている領域や、「状態」が「スリープ」になっている領域は選択できません。BOOTを変更するには、[ FDISK オプション ]の機能を利用します。[ FDISK オプション ]は、MS-DOSプロンプトの画面から、

FDISK

と入力して起動します。表示された画面で、「2. 状態を変更」を選択した後、画面の指示にしたがって領域の「BOOT」を「可」に設定してください。

## 自動起動の設定

[ 固定ディスク起動メニュー ]を表示しないで、あらかじめ指定したハードディスクの指定した領域から自動起動することができます。自動起動の設定を行うと、次回起動時からは固定ディスク起動メニューは表示されません。

自動起動の設定を行うには、次のように操作してください。

- 1 [ 固定ディスク起動メニュー ]が表示されているときに、自動起動したい領域を反転表示させ、キーを押します。
- 2 「選択した領域を自動起動に設定しますか(Y/N)?」というメッセージが表示されるので、キーを押します。キーを押すと自動起動の設定は行われません。
- 3 次のように表示されて、自動起動に設定されます。
  - ・ 領域名の横 「\*」
  - ・ 画面右下 「\*は自動起動に設定された領域です」

なお、複数の領域を自動起動に設定することもできますが、この場合の優先順位は次のようになり、最初に認識された領域から起動します。

内蔵固定ディスク(装置番号小 大)

SCSI 固定ディスク(装置番号小 大)

光ディスク(装置番号小 大)

## 自動起動の変更/解除

自動起動の変更/解除は、[ 固定ディスク起動メニュー ]で行います。

自動起動に設定されていると、[ 固定ディスク起動メニュー ]は表示されませんので、次のような操作で [ 固定ディスク起動メニュー ]を表示させます。

- 1** 装置の起動時にキーボードの **[TAB]** キーを押し続けます。
- 2** 「ピピピ…」という音が鳴ったら、**[TAB]** キーから指を離します。
- 3** 固定ディスク起動メニューが表示されたら、次のように操作します。
  - ・ 変更する場合  
**[f・1]** キーを押して自動起動を解除した後、「 自動起動の設定 」と同じ操作を行ってください。
  - ・ 解除する場合  
自動起動を解除したい領域名を反転表示させ、**[f・1]** キーを押します。

# FAT32ファイルシステムの利用

本機にインストールされているWindows 95では、FAT32ファイルシステムをサポートしています。ここでは、FAT32ファイルシステムの概要や設定方法について説明します。

FAT(File Allocation Table)ファイルシステム(以降、FAT16)は、MS-DOSや従来のWindowsで使用されている基本的なファイルシステムです。

FAT32ファイルシステム(以降、FAT32)はFAT16を拡張したファイルシステムで、次のような特長があります。

- ・従来のFAT16では、2GBの容量を超える領域を扱えませんでした。FAT32では理論上2TB(2,048GB)の容量まで扱えます。



FAT32に関する情報は、[ Windows ]フォルダのGENERAL.TXTにも記載されています。

## FAT32を使用する場合の注意

本機の出荷時のハードディスクの領域はFAT16です。通常は、FAT16のまま使用してください。FAT32を使用する場合は、次の注意事項を確認してご使用ください。

- ・内蔵ハードディスクにカスタム再セットアップでシステムを再セットアップする場合、システム領域(第1パーティション)をFAT32にしないでください。
- ・本機に添付されているアプリケーションやご使用になっているソフトウェアによっては正しく動作しない場合があります。
  - ・スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、[ システムツール ]グループにあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、[ ドライブスペース ]ではFAT32のドライブを圧縮できません。
  - ・Windows 95がインストールされている領域をFAT32に変更した場合は、98TELFAXの自動受信機能は使用できません。
- ・FAT32は、本機にインストールされているWindows 95でのみ使用できます。以下のOSでは、FAT32のドライブに保存されたデータやファイルにアクセスできません。

市販されているWindows 95

MS-DOS 6.2

Windows 3.1

Windows NT 4.0 および、それ以前のバージョンのWindows NT

OS/2

NetWare

## FAT32の設定方法

FAT32を利用するには、[ FDISK オプション ] を使用して領域を作成します。

[ FDISK オプション ] は、ハードディスクに領域を作成したり、削除したりするプログラムです。

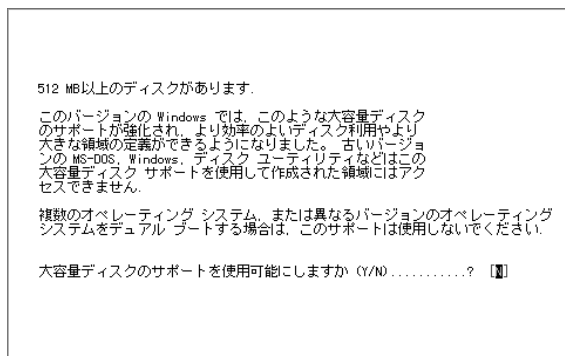


領域を削除すると、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルもすべて削除されます。大切なデータやファイルは、領域を削除する前に必ずフロッピーディスクなどの別の媒体に保存してください。

[ FDISK オプション ] は、Windows 95を起動して、MS-DOS プロンプトの画面から次のように入力します。

FDISK 

ハードディスクの容量が512MBを超える場合は、大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認する、次のようなメッセージが表示されます。



を選択した後、領域 (ただし、512MBを超える領域) を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。



作成した領域のサイズが512MBよりも小さい場合は、自動的にFAT16が適用されます。

[ FDISK オプション ] で領域を作成した後、Windows 95を再起動してドライブをフォーマットすると、領域が利用できるようになります。

98  
**VALUESTAR**